

平成 28 年 度

業 務 年 報

大分県農林水産研究指導センター

平成28年度 業務年報

目 次

| | |
|-------------------------------------|----|
| I 大分県農林水産研究指導センターの概要 | 1 |
| 1 農林水産研究指導センターの組織 | 1 |
| 2 試験研究課題の重点化と評価の徹底 | 2 |
| 3 情報発信機能の強化 | 5 |
| 4 農林水産研究指導センター研究状況報告及び知事報告 | 5 |
| 5 試験研究機関の連携推進 | 6 |
| 6 研究員の資質向上 | 6 |
| 7 知的財産権の取得状況 | 9 |
| 8 大学との連携 | 9 |
| 9 受賞、学位取得の状況 | 10 |
| 10 主要な行事・会議等 | 10 |
| 11 各所属の業務・試験研究 | 11 |
| 12 予算概要 | 12 |
| | |
| II 研究部・グループの概要 | 13 |
| 1 農業研究部 | 13 |
| 2 水田農業グループ | 27 |
| 3 果樹グループ | 32 |
| 4 花きグループ | 37 |
| 5 畜産研究部 | 41 |
| 6 林業研究部 | 47 |
| 7 きのことグループ | 52 |
| 8 水産研究部（浅海・内水面グループ含む） | 59 |
| | |
| 農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先 | 67 |

I 大分県農林水産研究指導センターの概要

1. 農林水産研究指導センターの組織

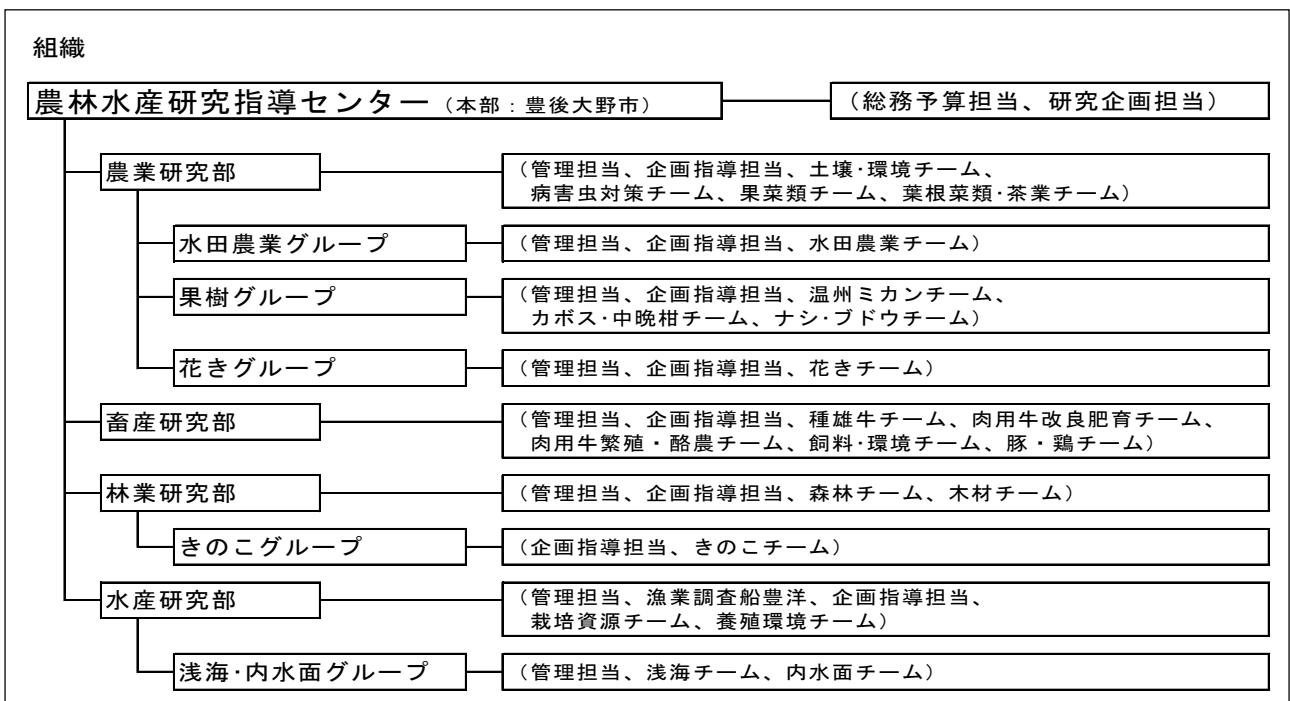
平成17年4月に、農業、畜産、林業及び水産の各試験研究機関を統合し、「農林水産研究センター」を設置した（センター本部：県庁研究普及課内）。その後の農林水産を取り巻く環境や情勢の変化を踏まえ、「産地間競争に打ち勝ち、もうかる農林水産業」を実現するため、現場ニーズに応えた研究、研究のスピード化、成果の迅速な普及をめざして研究指導体制を強化し、平成22年4月に「農林水産研究指導センター」に名称を変更した。また、環境対策をはじめ分野を超えた研究課題に対し、連携強化を図るため、農業、畜産、林業及び水産の4研究部に再編するとともに、効率的・効果的な研究開発を行うため、チーム制を導入した。さらに、センター本部を県庁から豊後大野市に移し、全体を統括するセンター長と総務予算担当、研究企画担当を配置した。

その後、平成23年4月に宇佐市から農業研究部の「土壌・環境チーム」と「病害虫チーム」を、6月には「イチゴチーム」を豊後大野市に移転した。また、平成25年4月より、農業研究部の「ネギ類チーム」を、「ネギ・イモ類チーム」に、畜産研究部の「豊後牛改良チーム」を、「肉用牛改良肥育チーム」に、「肉用牛・酪農チーム」を、「肉用牛繁殖・酪農チーム」に名称変更した。さらに、畜産研究部の家畜伝染病防疫体制強化を図るため、新たに種雄牛舎を建設し、「種雄牛チーム」を新設した。平成28年4月には、農業研究部の「病害虫チーム」を「病害虫対策チーム」に名称変更し、「イチゴチーム」と「トマト・ピーマンチーム」を「果菜類チーム」に、「ネギ・イモ類チーム」と「茶業チーム」を「葉根菜類・茶業チーム」に、水田農業グループの「作物品種チーム」と「作物栽培チーム」を「水田農業チーム」に組織改編を行い、試験研究の効率化を図った。

また、県農林水産部では時流に対応するために平成27年12月に「おおいた農林水産業活力創出プラン2015」を策定したところであるが、当センターにおいても平成28年3月に「大分県農林水産試験研究基本指針」を策定し、「変化に対応し、挑戦と努力が報われる農林水産業を実現するための研究開発を行う。」ことを基本理念として、成果の活用先（ターゲット）を明確にして経済性を重視した研究開発を行い、農林水産業の創出額増加に寄与することとした。

今後も引き続き、研究員自らが普及指導員等と一緒に生産現場に赴き、開発した技術を生産者へ指導、技術実証を行うなど、普及指導体制の強化に取り組むこととしている。

なお、豊後大野市のセンター本部では、試験研究機関の予算の総合調整、研究課題の決定・進行管理、共同研究調整、知的財産取得・活用、課題評価・成果公表、研究員の資質向上、産学官交流・連携促進などの業務を行っている。



農林水産研究指導センター各場所別職員配置表

平成28年4月1日現在

| 機関 | 事務吏員 | 技術吏員 | | | | | 技労職員 事務補佐 | 合計 |
|----------------|------|------|----|----|----|-----|--------------|-----|
| | | 研究 | 行政 | 普及 | 海事 | 計 | | |
| 農林水産研究指導センター本部 | 3 | | 6 | | | 6 | | 9 |
| 農業研究部 | 5 | 35 | 1 | 3 | | 39 | 7 | 51 |
| 水田農業グループ | 3 | 10 | 1 | | | 11 | 6 | 20 |
| 果樹グループ | 1 | 14 | 1 | 2 | | 17 | 6 | 24 |
| 花きグループ | 1 | 7 | 1 | | | 8 | 3 | 12 |
| 畜産研究部 | 5 | 22 | 2 | 3 | | 27 | 25 | 57 |
| 林業研究部 | 3 | 12 | 1 | 1 | | 14 | 2 | 19 |
| きのこグループ | | 7 | 1 | 2 | | 10 | 1 | 11 |
| 水産研究部 | 3 | 16 | 1 | | 6 | 23 | | 26 |
| 浅海・内水面グループ | 2 | 11 | 1 | | | 12 | | 14 |
| 合計 | 26 | 134 | 16 | 11 | 6 | 167 | 50 | 243 |

2. 試験研究課題の重点化と評価の徹底

試験研究を効率的に実施するため、概ね100課題に厳選し、試験研究のスピード化を図るため、研究期間を原則3年間とした。

また、現場ニーズを広く収集し、農林水産業の振興、県民生活の向上などに資する試験研究を行うために、ホームページや文書などで一般県民や生産者、関係団体などに試験研究課題に対する要望調査を行い、関係者等から166件の要望を収集した。

研究課題の設定や進行管理に当たっては、収集した要望の中から試験研究として取組可能な課題について内部・外部評価を厳格に行い、評価結果や進捗状況を公表した。

(1) 評価の種類別対象課題

・事前評価

開発しようとする技術の内容や手法を精査し、予算要求を行う事前の段階において新規候補課題のすべてについて、県民のニーズや政策的なニーズ、目標達成の可能性など全ての観点から評価を得て、課題実施の適否について判断した。

・事後評価

試験研究結果について検証し、現地移転の促進や次期試験研究計画の策定等に活かすため、試験研究終了の翌年度に研究目標等に対する達成状況について評価を得た。

(2) 所属内新規試験研究課題検討会

現場ニーズにあった試験研究計画とするとともに、試験研究結果について検証し、現地移転を促進した。開催は各研究部、グループ単位で行い、研究員、生産原課の担当職員、普及指導員、生産者代表等に出席を求め、研究実施の必要性、方法の適否、成果とその普及手法等について検討した。

(3) 試験研究推進本部会議並びに試験研究企画評価会議(内部評価)

(7月12日：農業部門、7月13日：畜産部門、林業部門、水産部門)

農林水産部長、審議監、県庁生産原課の課室長、農業大学校長並びに農林水産研究指導センター長で構成する試験研究推進本部会議と総務部・企画振興部・生活環境部の総務企画監、商工労働部の産業企画監、産業科学技術センター企画連携担当総括並びに農林水産部構造改革企画監及び流通企画監で構成する試験研究企画評価会議を開催し、全ての事前、事後評価対象研究課題について評価を受けた。

(4) 外部評価委員会(外部評価)：9月1日

経済界や大学の学識経験者、流通関係者や生産者代表をもって構成する外部評価委員により、「研究課題の必要性」、「研究課題の社会的・経済的効果」及び「県が行う必要性」について評価を受けた。

平成28年度 大分県農業研究部試験研究外部評価委員

| 分野 | 委員名 | 役職等 | 選定理由 |
|--------|--------|----------------------------------|---|
| 経済界・学識 | 和田 康宏 | (株)日本政策投資銀行大分事務所長 | 地域経営や地域づくりに関する豊富な情報を踏まえた評価が期待できる。 |
| | 本谷 るり | 大分大学経済学部教授 (経営戦略論) (経営組織論) | 大分県新長期総合計画策定県民会議委員(産業振興部会)、大分県行財政改革推進委員会委員、大分県企業局経営評価委員会委員、大分県総合評価落札方式審査委員会委員 一次産業の経営戦略的な観点から研究課題の妥当性について評価を期待できる。 |
| 流通関係者 | 長尾 喜久男 | 京都青果合同(株)執行役員部長 | 大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。 |
| | 立石 弘司 | イオン九州(株)九州商品開発部長 | 大分県マーケティングアドバイザー。 大消費地における商品化を踏まえた技術開発について助言と評価が期待できる。 |
| | 藤澤 政則 | 前大分一村一品株式会社 代表取締役社長 | 県内におけるマーケティングに携わる最前線の立場から技術開発の必要性等について評価が期待できる。 |
| 生産者代表 | 大窪 勉 | 小ネギ生産者 | 大分”味一ねぎ”生産部会副部会長、葱屋おおくぼ(有) 代表取締役 |
| | 近藤 和義 | 肉用牛経営者 | 県議、大分県畜産協会会長、おおいた森林組合長、元大分県指導農業士会会長 |
| | 田島 信太郎 | 林業経営者 | 田島山業(株) 代表取締役 |
| | 渡邊 英敏 | 小型底曳漁業者 | 大分海区漁業調整委員会委員、大分県漁業士連絡協議会会長(同協議会底びき網部会長)、大分県漁協宇佐支店底曳協議会会長、宇佐市長洲「浜の市」実行委員会実行委員 |

(5) 平成29年度研究課題の決定

内部評価で総合得点60点以上の評価を得た新規候補課題については、次の外部評価に進み、60点未満のものについてはこの時点で外部評価対象課題から除外する。今回内部評価を受けた事前評価対象課題数は20課題で、そのうち19課題が60点以上となり、外部評価対象課題となった。

外部評価発表課題は内部評価を通過した全ての新規課題を対象とした。外部評価で総合60点以上の評価を得た課題については、平成29年度予算要求課題候補とすることとしており、今回外部評価を受けた19課題数はすべて総合得点60点以上であった。

平成29年度の新規候補課題数は19課題であり、全課題を予算要求課題として採択した。

(6) 評価制度の見直し

外部評価委員会専門部会を廃止して新たに農林水産試験研究アドバイザーを置き、各所属の内
部会議に招集するなど柔軟な対応が可能となるように見直しを行い、学識経験者、消費流通関係
者等のアドバイザーから、新規研究課題に関して専門分野の技術的アドバイスを受けた。

平成28年度大分県農林水産試験研究アドバイザー一覧

| 部 門 | 所 属 名 | 職 名 | 氏 名 |
|---------|---|-----------------|------------------------------|
| 土 壌・環 境 | 国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 | 教授 | 和田 信一郎 |
| | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター | 上席研究員 | 古賀 伸久 |
| 病 害 虫 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター | 上席研究員 | 大貫 正俊 |
| | 一般社団法人 九州病害虫防除推進協議会 | 常務理事 | 山中 正博 |
| 野 菜 | 国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 | 准教授 | 尾崎 行生 |
| | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター | 暖地野菜花き 研究調整監 | 沖村 誠 |
| | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 都城研究拠点 畑作研究領域 | 畑作研究 領域長 | 小柳 敦史 <small>オヤナギ</small> |
| 茶 業 | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 | 主任研究員 | 吉田 克志 |
| 水 田 農 業 | 三和酒類株式会社 | 取締役 統括部長 | 高下 秀春 |
| | 国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 | 教 授 | 望月 俊宏 |
| | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター | グループ長 | 中野 洋 |
| 果 樹 | 国立大学法人 鹿児島大学 かがしまCOCセンター | 特任教授 | 富永 茂人 |
| | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター | 九州沖縄果樹 研究調整監 | 根角 博久 |
| 花 き | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター | 上級研究員 | 今村 仁 |
| | 東海大学 | 教授 | 田中 孝幸 |
| | 宇田花づくり研究所 | 代表 | 宇田 明 |
| 畜 産 | 国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 | 准 教 授 | 後藤 貴文 |
| | 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター | 畜産草地 研究領域長 | 梶 雄次 |
| | 公益社団法人 大分県畜産協会 | 専 務 理 事 | 佐藤 信行 |
| 林 業 | 国立研究開発法人 森林総合研究所 林木育種センター九州育種場 | 育種課長 | 倉本 哲嗣 |
| | 国立研究開発法人 森林総合研究所 九州支所 | 主任研究員 | 山川 博美 |
| | 国立研究開発法人 森林総合研究所 九州支所 | グループ長 | 安部 哲人 |
| | 国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 | 准 教 授 | 藤本 登留 |
| きのこ | 国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 | 教 授 | 大賀 祥治 |
| | 国立研究開発法人 森林総合研究所 九州支所 | 主任研究員 | 宮崎 和弘 |
| 水 産 | 国立大学法人 九州大学 大学院 農学研究院 | 教 授 | 松山 倫也 |
| | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 | 部 長 | 日向野 純也 |
| | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 増養殖研究所 | センター長 | 奥澤 公一 |

3. 情報発信機能の強化

(1) 研究Now

研究成果を「研究 Now」と題してホームページに概ね月1回のペースで掲載し、研究内容を分かりやすく紹介した。

| Vol. | 公表日 | 所属 | タイトル |
|------|-------------|------------|--|
| 51 | 平成28年4月15日 | 水産研究部 | ブリ類養殖のレンサ球菌症対策 ～新たなワクチン開発研究～ |
| 52 | 平成28年5月31日 | 農業研究部 | 農産物に含まれる栄養性・機能性成分の研究 |
| 53 | 平成28年6月14日 | 畜産研究部 | 乳牛の雌選別精液を用いた人工授精の受胎率向上 |
| 54 | 平成28年7月29日 | 果樹グループ | マルチ被覆による少加温栽培「大分果研4号」の品質向上 |
| 55 | 平成28年8月15日 | 農業研究部 | 炭酸ガスを施用するとトマトの収穫量が増える！！ |
| 56 | 平成28年11月7日 | 畜産研究部 | 麦焼酎粕濃縮液とイネ発酵粗飼料を主体とした子牛育成用飼料の開発 |
| 57 | 平成28年11月15日 | 林業研究部 | ニホンジカの誘引技術等に関する研究 |
| 58 | 平成28年12月2日 | 水田農業グループ | 多収性専用品種で飼料用米の単収向上を目指します |
| 59 | 平成28年12月15日 | 農業研究部 | ピーマン栽培における新しい天敵利用技術 |
| 60 | 平成29年2月6日 | 浅海・内水面グループ | 遡上アユを増やすための産卵場造成時期とは ～孵化時期の盛期からの推定～ |
| 61 | 平成29年2月21日 | 畜産研究部 | イネWCS、飼料用米を活用した「豊後・米仕上牛」のブランド力強化と生産性向上 |
| 62 | 平成29年3月23日 | 果樹グループ | 温州ミカンの日焼け果軽減対策について |

(2) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 頁数 | 部数 |
|-------------------|------------|----|-------|
| 大分県農林水産研究指導センター要覧 | 平成28年6月6日 | 7 | 1,000 |
| 平成27年度業務年報 | 平成28年7月19日 | 64 | 100 |

4. 農林水産研究指導センター研究状況報告会及び知事報告

試験研究活動や成果を知事・副知事及び県庁職員へ広く情報を提供するために実施した。

| 年月 | 場所 | 課題 | 主な聴講者 |
|----------------|----------------|--|--|
| 平成28年 7月29日 | 県庁舎本館 71会議室 | ①フェロモントラップを利用した夏秋ピーマンのタバコガの一斉防除 (農業研究部 病害虫対策チーム 主任研究員 姫野和洋) ②麦焼酎粕濃縮液とイネ発酵粗飼料を主体とした子牛育成用飼料の開発 (畜産研究部 飼料・環境チーム 主任研究員 鶴岡克彦) ③姫島村におけるクルマエビとアサリの混合養殖技術開発 (浅海・内水面グループ 浅海チーム 研究員 山田英俊) | 副知事、部長、 審議監、関係課室 長、センター長他 (計 50名) |
| 平成28年 11月7日 | 県庁舎本館 91会議室 | ①水稻乾田直播栽培を基軸とした土地利用型作物の超低コスト栽培法の開発 (水田農業グループ 水田農業チーム 主幹研究員(TL) 近乗 偉夫) ②ハウスミカンの高収量・省力・省エネ化による経営安定 (果樹グループ 温州ミカンチーム 主任研究員 矢野 拓) ③省力造林用コンテナ苗の育苗技術の開発 (林業研究部 森林チーム 主任研究員 佐藤嘉彦) | 副知事、部長、 審議監、関係課室 長、センター長他 (計 55名) |
| 平成29年 1月27日 | 知事室 第一応接室 | ①水稻乾田直播栽培を基軸とした土地利用型作物の超低コスト栽培法の開発 (水田農業グループ 水田農業チーム 主幹研究員(TL) 近乗 偉夫) ②ハウスミカン『垣根仕立て栽培』の取り組みについて (地域農業振興課 広域普及指導班 (果樹グループ 企画指導担当) 課長補佐 川野達生) | 知事、部長、審議 監、センター長、 所属長、地域農業 振興課長他 |

5. 試験研究機関の連携推進

県内の試験研究機関が総合的かつ有機的な連携を図るため、衛生環境研究センターと産業科学技術センターとで大分県試験研究機関連携会議を平成22年度に設置し、研究員の交流、意見・情報交換の推進、試験研究機器の相互有効活用の推進、研究の連携推進等行っている。

なお、平成28年度の幹事機関は産業科学技術センターであり、下記のとおり3センターの連携を深めた。

| 回 | 開催日 | 場所 | 内容 |
|-----|------------|------------|-------------------------------------|
| 第1回 | 平成28年4月12日 | 産業科学技術センター | 包括外部監査意見に対する措置案協議 |
| 第2回 | 平成28年5月17日 | 産業科学技術センター | 包括外部監査意見に対する措置案協議 |
| 第3回 | 平成28年6月13日 | 産業科学技術センター | 試験連のあり方、3センター連携強化を協議 |
| 第4回 | 平成29年1月13日 | 産業科学技術センター | H27年度の事業報告、H28年度の事業計画の説明及び意見交換 |
| 第5回 | 平成29年2月21日 | 産業科学技術センター | 各機関の業務概要の紹介、施設見学、WGに分かれて意見交換会及び全体討議 |

6. 研究員の資質向上

研究課題解決のための高度な技術の習得及び資質向上のため研究員の研修を実施した。

(1) 短期派遣研修

| 所 属 | 役職 | 氏名 | 派遣先 | 派遣地 | 研修期間 | 研修課題 |
|------------|-------|--------|-----------------------------------|-----|----------------------------------|--|
| 農業研究部 | 研究員 | 野村 雄太 | (国)農研機構 中央農業総合研究センター | 茨城県 | 平成28年7月10日 ～16日(5日間) | 寄生蜂を遺伝的及び形態的に 同定・分類する手法を習得し、より迅速かつ正確に天敵製剤の効果の判定を行うことを目的とする。 |
| 農業研究部 | 研究員 | 田中 啓二郎 | 法政大学応用植物科学科 | 東京都 | 平成28年8月29日 ～9月2日(5日間) | 菌類、細菌、ウイルスといった多様な病原による病害について、座学及び実習により病害診断を習得することを目的とする。 |
| 畜産研究部 | 主幹研究員 | 佐藤 亘 | (公社)畜産技術協会 附属動物遺伝研究所 | 福島県 | 平成28年10月31日 ～11月18日 (19日間) | 黒毛和種におけるゲノム選抜手法の開発と育種への応用 |
| 畜産研究部 | 主幹研究員 | 木本 裕嗣 | (独)家畜改良センター 岡崎牧場 | 愛知県 | 平成28年9月27日 ～29日(3日間) | 鶏の精液採取、人工授精、凍結技術の習得 |
| 水産研究部 | 研究員 | 甲斐 桑梓 | 養殖衛生対策推進協議会 (社)日本水産資源保護協会 | 東京都 | 平成28年7月26日 ～8月5日(10日間) | 養殖衛生管理技術者として必要な知識、技術の習得(養殖業の経営安定、及び安全・安心な養殖業等について) |
| 水産研究部 | 研究員 | 山本 桂伊 | (国)水産研究・教育機構 日本海区水産研究所 | 京都府 | 平成28年11月14日 ～18日(5日間) | ワムシ培養に関する技術研修 |
| 浅海・内水面グループ | 研究員 | 宇都宮のぞみ | (公社)北海道栽培漁業振興公社 (地独)北海道立総合研究機構 | 北海道 | 平成28年7月25日 ～7月29日(3日間) | ナマコの種苗生産技術およびナマコの増殖、放流技術の習得 |

(2) 長期派遣研修

なし

(3) 新規採用研究員現場体験研修

| 所 属 | 役職 | 氏名 | 派遣先 | 派遣地 | 研修期間 | 研修課題 |
|-------|-----|-------|-------|-------|----------------------------------|-------------|
| 農業研究部 | 研究員 | 山賀 陽子 | 農業生産者 | 豊後大野市 | 7月4日～7月8日(5日間) 1月16日～20日(5日間) | ピーマン・トマト栽培 |
| 水産研究部 | 研究員 | 甲斐 桑梓 | 県漁協 | 佐伯市 | 10月24日～2月28日(延べ 10日間) | ヒラメクドア、種苗検査 |
| 水産研究部 | 研究員 | 山本 桂伊 | 生産組合 | 津久見市 | 1月下旬～3月中旬(延べ7日 間) | ヒラマサの種苗生産技術 |

(4) 若手研究員研修

若手研究員に対して、本県の農林水産業を取り巻く情勢、他研究部・グループでの研究内容及び研究に対する心構え等について理解を深めるとともに、先輩研究員からの講演をとおり、若手研究員の意欲を高め、幅広い観点から試験研究遂行能力の向上を図るため研修を行った。

| 開催年月日 | 開催場所 | 参加者数 | 内 容 |
|----------|-----------------|-----------------------|---|
| H28.9.28 | センター別館 第3会議室 | 概ね35歳以下の 若手研究員 40名 | 講話①「良い研究とは」 講師 都留 嘉治(センター長) 講話②「研究、普及、生産者の循環」 講師 福田 賢二(果樹グループ 主幹研究員(TL)) 講話③「Youは何しに研究を～ワクワク?ドキドキ?～」 講師 木藪 仁和(水産研究部 主幹研究員) |

(5) 中堅研究員研修

中堅研究員を対象に、民間企業や関係機関の方との意見交換をとおり、視野を広げ、試験研究企画及び自己開発能力の向上を目的に研修を行った。

| 開催年月日 | 開催場所 | 参加者数 | 内 容 |
|----------|----------------|-----------------------|---|
| H29.2.24 | 県庁舎本館 91会議室 | 概ね35歳以上の 若手研究員 60名 | テーマ「これからの試験研究の進むべき道 ～後輩へ贈る言葉～」 講演①「黒毛和牛で実践、メンデルの法則」 講師 畜産研究部 企画指導担当 藤田 達男 主幹研究員(総括) 講演②「魚病対策研究裏話」 講師 水産研究部 養殖環境チーム 福田 穰 専門研究員(TL) |

(6) チームリーダー研修

各研究部、グループのチームリーダー及び企画指導担当（総括）を対象に研究の企画・立案能力の向上を図り、リーダーとしての自覚を高めることを目的に研修を実施した。

| 開催年月日 | 開催場所 | 参加者数 | 内容 |
|----------|----------------|----------------------------------|---|
| H28.7.15 | 県庁舎本館 91会議室 | チームリーダー 及び 企画指導担当総括 32名 | 講演「研究チームと組織の仕組み」 講師 別府大学 国際経営学部 森 宗一 氏 |

(7) マーケティング研修

国内外の農業の動向など幅広い情報とマーケット動向を的確に把握し、農林水産業をめぐる環境等の変化及び市場ニーズをしっかりとつかみ、将来を見据えた新たな発想を生み出す研究員の育成を図ることを目的に研修を実施した。

| 開催年月日 | 開催場所 | 参加者数 | 内容 |
|---------|------------|----------|--|
| H29.3.9 | (株)大分県畜産公社 | 研究員等 30名 | (株)大分県畜産公社施設見学 説明「(株)大分県畜産公社の取組について」 講師 (株)大分県畜産公社 吉武 理 専務 |

(8) プレゼンテーション研修

なし

(9) 数理統計研修

試験研究を行っていく上で、基礎的かつ重要な数理統計について、農林水産試験研究における基礎的な手法の習得とあわせて、現場において直面すると思われる数理統計処理の演習を行うため研修を実施した。

| 開催年月日 | 開催場所 | 参加者数 | 内容 |
|------------|----------------|----------|--|
| H28.12.5～7 | 県庁舎新館 OAプラザ | 研究員等 15名 | 「統計学概論」 講師 (国)農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 三中 信宏 ユニット長 |

(10) 知的財産研修

知的財産は新たな付加価値を創出し、ブランド化や産地間競争での優位性を高めるとともに、共同研究や競争的研究資金を獲得する上で有効なものである。

平成28年度は、下記研修に研究員等を派遣した。

| 開催年月日 | 開催場所 | 参加者数 | 内容 |
|---------|----------|-------|--|
| H28.9.9 | ホルトホール大分 | 研究員5名 | 特許庁主催の知的財産権制度説明会(初心者向け)を活用し、知的財産権に関する知見を深めた。 |

7. 知的財産権の取得状況

(1) 特許登録

平成28年度中に登録となった特許は下表のとおりであった。

| 発明・考案の名称 | 関係所属 | 大分県の 権利持分(%) | 特許番号 (登録日) |
|---|----------------|-----------------|----------------------------|
| 貝類の育成装置 | 浅海・内水面 グループ | 1/3 | 特許第5967487号 (H28.7.5) |
| ブリ細菌性溶血性黄疸の病原体抗原ポリペプチド、 及びこれを含む水産用ワクチン | 水産研究部 | 20 | 特許第6041238号 (H28.11.18) |
| 茶の施肥方法 | 農業研究部 | 50 | 特許第6099048号 (H29.3.3) |

(2) 品種登録

平成28年度中に登録された品種等は下表のとおりであった。

| 種類(品種名) | 関係所属 | 大分県の 権利持分(%) | 登録番号 (登録日) |
|-----------|-------|-----------------|----------------------|
| イチゴ(大分5号) | 農業研究部 | 100 | 第25606号 (H29.2.8) |

8. 大学との連携

県内には農林水産系の4年制大学がなく、研究交流が容易に進み難い状況にあるため、平成19年1月29日に九州大学大学院農学研究院と共同研究や人材養成について連携する基本協定を締結し、共同研究等で幅の広い研究を行うための連携を進めた。なお平成24年1月28日を以て5年間の有効期間が満了したが、引き続き5年間の協定の延長を行っている。

なお、平成28年度は3課題について共同研究・連携に向けた取組を行うと共に、九州大学大学院農学研究院と大分県農林水産部との連携協議会を1回開催した。

| 開催月日 | 場所 | 行事名 | 内 容 | 参 集 者 |
|----------|------|------------------------------|---|--|
| H28.6.27 | 九州大学 | 九州大学大学院農学研究院と大分県農林水産部との連携協議会 | 全体協議 (1)「大分県農林水産試験研究基本指針について」 大分県農林水産研究指導センター 研究企画監 吉野 雅子 氏 (2)「大分県農林水産研究指導センターのこれからの取組について」 基調講演 「味覚センサと匂いセンサの研究開発」 九州大学味覚・嗅覚センサ研究開発センター センター長 都甲 潔 氏 話題提供 (1)「世界農業遺産「国東半島・宇佐の農林水産循環」を支える基礎研究」 大分県農林水産研究指導センター 研究指導顧問 林 浩昭 氏 (2)「農林水産省の政策動向と競争的資金に関する動きについて」 九州大学農学研究院研究企画支援室 教授 篠原 隆 氏 | 九州大学 農学研究院長 他 センター センター長 他 (計 45名) |

9. 受賞、学位取得の状況

(1) 受賞者一覧

花きグループ

| 受賞者 | 受賞名 | 表彰授与主体 | 受賞年月日 | 受賞の内容 |
|---------------|------------------|--------------|-----------|--|
| 主幹研究員 甲斐克明 | 園芸学会九州 支部賞技術賞 | 園芸学会 九州支部 | H28.12.25 | 量販用輪ギク（エ コマム）年4作生 産方式の実証試験 を行い、その技術 確立と普及に貢献 |

※本賞は地域農業振興課 吉松修治主査（現農業大学校）との連名

畜産研究部

| 受賞者 | 受賞名 | 表彰授与主体 | 受賞年月日 | 受賞の内容 |
|---------------|--------------------|----------|----------|--|
| 主幹研究員 藤田達男 | 日本胚移植研究会 賞（柘田賞） | 日本胚移植研究会 | H28.9.16 | ウシの受精卵移植技術 と肉用牛ゲノム情報と の融合による牛白血病 発症抵抗性遺伝子保有 種雄牛の造成 |

(2) 学位取得者一覧

2名の研究員が学位（博士）を取得した。

平成29年3月末時点での当センター在籍職員の学位（博士）取得者は10名である。

| 学位取得者 | 所属 | 職名 | 学位授与大学 | 授与日 | 学位 | テーマ |
|-------|---------|---------------|--------|----------|----|--|
| 有馬 忍 | きのこグループ | 主幹研究員（総 括） | 東京農業大学 | H29.2.20 | 農学 | 栽培きのこに発生する病害の病原特 定、発生生態および防除に関する研究 |
| 鶴岡 克彦 | 畜産研究部 | 主任研究員 | 九州大学 | H29.3.24 | 農学 | 黒毛和種仔牛における麦焼酎粕濃縮 液及び稲発酵粗飼料が成長に及ぼす 影響 |

【農林水産部職員（H29年3月末時点）の博士号取得者数 16名】

うち農林水産研究指導センター所属：10名（内訳：果樹(1)、畜産(2)、林業(1)、きのこ(2)、水産(3)、浅・内(1)）

10. 主要な行事・会議等

(1) 主な行事・会議等一覧表

| 月 日 | 行事名等 | 場 所 |
|-----------------|--|------|
| 平成28年7月12日 | 農林水産部試験研究推進本部・企画評価合同会議 （農業部門） | 水産会館 |
| 平成28年7月13日 | 農林水産部試験研究推進本部・企画評価合同会議 （畜産・林業・水産部門） | 水産会館 |
| 平成28年9月1日 | 農林水産部試験研究外部評価委員会 | 水産会館 |
| 平成28年10月15日～16日 | 農林水産祭（農林業部門）への農業・畜産・林業研究展示 | 別府公園 |
| 平成28年10月22日～23日 | 農林水産祭（水産部門）への水産研究展示 | 亀川漁港 |

(2) 所属長会議及び企画調整会議の開催

各試験研究機関との連絡調整を図るため、本部と各研究部長・グループ長とで構成する所属長会議及び各研究部、グループの企画指導担当（総括）等で構成する企画調整会議を開催した。

なお、所属長会議は4回、企画調整会議は5回開催した。

1.1. 各所属の業務・試験研究

| 所属名 | 主な業務・研究内容 |
|----------------------|--|
| 農林水産研究指導センター (本部) | <ul style="list-style-type: none"> ○研究課題の決定調整・進行管理 ○共同研究の調整・知的財産取得・活用 ○課題評価・成果公表 ○研究員の資質向上 ○産学官交流・連携促進 |
| 農業研究部 | <ul style="list-style-type: none"> ○土壌管理・施肥改善技術、有機栽培技術 ○病虫害発生予察・防除技術、環境保全型農業技術 ○イチゴの品種育成・選定、栽培技術、バイオ技術 ○ネギ・ニラ等の品種選定、栽培技術 ○トマト・ピーマン等の品種選定、栽培技術 ○茶の品種選定、栽培・加工技術 |
| 水田農業グループ | <ul style="list-style-type: none"> ○稲・麦・大豆の品種の育成・選定 ○稲・麦・大豆の栽培技術、優良種子生産 |
| 果樹グループ | <ul style="list-style-type: none"> ○温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術 ○カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 ○ナシ・ブドウ等の育種、優良系統の選抜、栽培技術 |
| 花きグループ | <ul style="list-style-type: none"> ○花き類の育種、優良系統の選抜、栽培技術 |
| 畜産研究部 | <ul style="list-style-type: none"> ○肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給 ○肉用牛の飼養技術及び繁殖技術 ○乳用牛の飼養技術及び繁殖技術 ○牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策 ○豚の育種、飼養管理技術並びに精液供給 ○家禽の育種並びに飼養管理技術 |
| 林業研究部 | <ul style="list-style-type: none"> ○育種・育林技術の開発に関する試験研究 ○環境を守る森林整備に関する試験研究 ○県産材の需要拡大に関する試験研究 |
| きのこグループ | <ul style="list-style-type: none"> ○きのこの育種、栽培技術、病虫害防除技術 ○きのこ類の生理、分類、同定に関する研究 |
| 水産研究部 | <ul style="list-style-type: none"> ○種苗生産と育種、放流効果技術、水産資源管理、漁場造成技術 ○養殖技術の開発、魚介類の疾病対策、漁場環境保全、水産物の品質向上技術 |
| 浅海・内水面グループ | <ul style="list-style-type: none"> ○別府湾以北の漁場環境保全、海藻類の増養殖技術、魚介類の種苗生産、放流技術及び資源管理 ○淡水魚の増養殖技術、資源管理、環境及び生物の保全、魚病診断・対策技術 |

12. 予算概要

平成28年度当初予算（経常的経費[人件費を除く]）

（単位：千円）

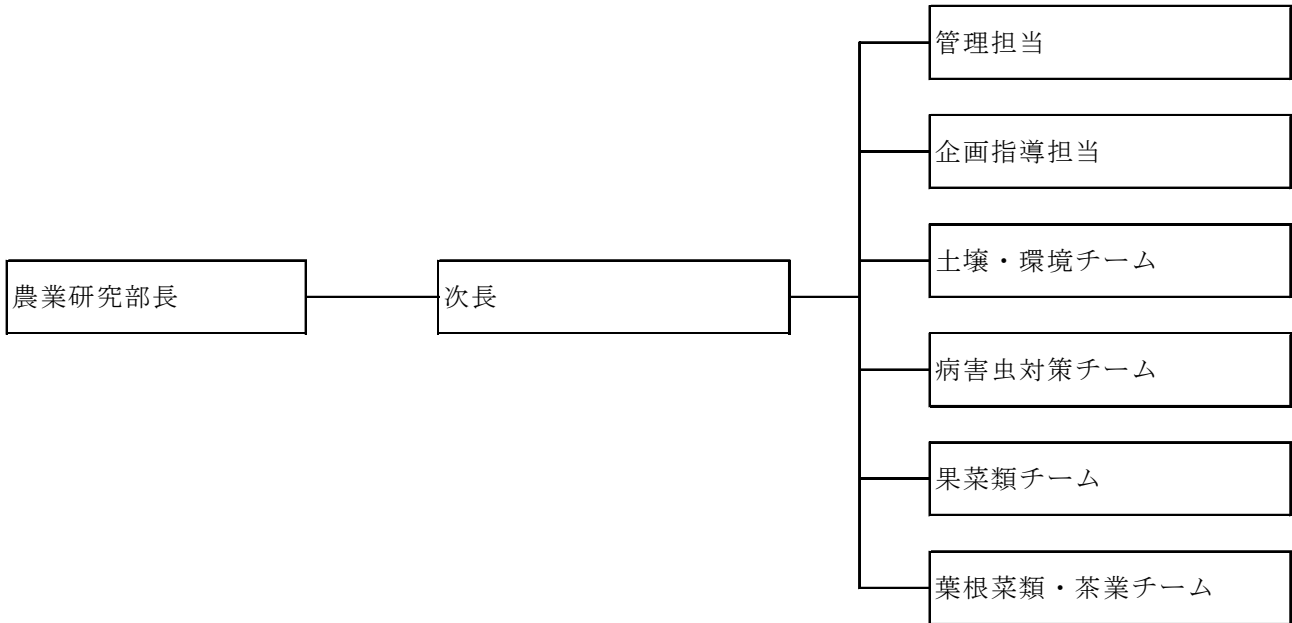
| 区 分 | 管理運営費 +管理予算 | 施設整備費 | 試験研究費 | 計 |
|--|----------------|--------|---------|---------|
| 試験研究調整費、農業気象情報ネットワーク推進事業 （農林水産研究指導センター本部） | 3,708 | | 16,012 | 19,720 |
| 農林水産研究指導センター施設整備事業 | | 81,665 | | 81,665 |
| 農業研究部 | 61,671 | | 44,564 | 106,235 |
| 水田農業グループ | 23,148 | | 13,822 | 36,970 |
| 果樹グループ | 16,109 | | 23,401 | 39,510 |
| 花きグループ | 26,885 | | 14,439 | 41,324 |
| 畜産研究部 | 45,132 | | 159,070 | 204,202 |
| 林業研究部 | 18,335 | | 10,096 | 28,431 |
| きのこグループ | | | 12,825 | 12,825 |
| 水産研究部 | 25,665 | | 34,351 | 60,016 |
| 浅海・内水面グループ | 24,539 | | 20,425 | 44,964 |
| 合計（農林水産研究指導センター） | 245,192 | 81,665 | 349,005 | 675,862 |

II 各研究部・グループの概要

II-1 農業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組織 | 職種 | 職員 | | 技師 | 労務技師 | 業務技師 | 事務補佐 | 計 | 備考 |
|----|----|----|----|----|------|------|------|----|------------|
| | | 事務 | 技術 | | | | | | |
| 部 | 長 | | 1 | | | | | 1 | |
| 次 | 長 | 1 | | | | | | 1 | 兼センター管理調整監 |
| 管 | 理 | 5 | | | | | 1 | 6 | |
| 企 | 画 | | 7 | | | | | 7 | 広域普及指導員3名 |
| 土 | 壌 | | 7 | | 1 | | | 8 | |
| 病 | 害 | | 9 | | | 1 | | 10 | |
| 果 | 菜 | | 9 | 2 | | 1 | | 12 | |
| 葉 | 根 | | 6 | | 1 | | | 7 | |
| | 計 | 6 | 39 | 2 | 2 | 2 | 1 | 52 | |

(3) 業務

主な業務

大分県農林水産試験研究基本指針に基づき、「The・おおいた」ブランドを確立するための産地づくりを技術面から支援する。研究課題の設定にあたり、県が推進する園芸戦略品目を中心に生産者や消費者・実需者のニーズを反映し生産現場に直結する栽培法や新品種を開発・改良・実証するとともに、地域未利用資源の新たな活用方法や品質、収量の向上に加えて、省力化技術など課題を解決するための研究を行う。

企画指導担当

- ①生産者に対する研修及び現地指導
- ②農業経営の調査・研究
- ③試験研究の企画調整、進行管理
- ④研究成果のとりまとめ、研究員の育成

土壌・環境チーム

- ①農産物の安全・安心に関する研究
- ②未利用有機物資源の農業活用技術に関する研究
- ③農産物の栄養・機能性成分の調査・分析に関する研究
- ④土壌保全・環境保全の調査並びに対策技術に関する研究
- ⑤肥料取締に係る分析

病虫害対策チーム

- ①安全性に配慮した農産物の生産技術に関する研究
- ②化学農薬の削減による安全・安心な防除技術に関する研究
- ③難防除病虫害対策、農薬耐性菌・抵抗性病虫害対策に関する研究
- ④病虫害発生予察及び、予防的減農薬栽培技術に関する研究
- ⑤マイナー作物への適用農薬の登録推進に関する研究

果菜類チーム

- ①果菜類（トマト・イチゴ・ピーマン）の栽培技術に関する研究
- ②イチゴのオリジナルの品種育成・普及に関する研究
- ③イチゴウイルスフリー苗の供給
- ④パプリカの現地実証
- ⑤スマート農業推進事業に関すること

葉根菜類・茶業チーム

- ①葉根菜類（ネギ、ニラ、カンショ等）の栽培技術に関する研究
- ②茶の栽培技術に関する研究
- ③カンショ、茶の品種選定
- ④カンショウイルスフリー苗の供給

2. 試験研究課題

農業研究部 (1/9)

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 | 時期 |
|-----------------------------------|--------------------|----------------------|----------|----------|----|
| I 大課題、 1中課題 ・研究項目 | | | | | |
| ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | | |
| ・ いちごの大規模経営体を育成・支援するための技術開発 | | | | | 前期 |
| 1) イチゴ大規模経営体を支援・育成する生産システムの確立 | | | | | |
| (1) 大規模経営体における安定出荷のための作型開発 | | | | | |
| ① 収穫ピークの分散 | | | | | |
| ア. 定植時期の違いが収穫ピークの分散に及ぼす影響 | 果菜類 チーム | 広域普及 指導員、 各振興局 | H28～30 | 県単 | |
| ・ 環境制御技術によるいちごの収量向上 | | | H28該当無し | | 後期 |
| ・ 施設葉菜類のハウス内環境制御技術の確立 | | | | | 前期 |
| 1) 新技術を核とした施設葉菜類の生産安定技術の確立 | | | | | |
| (1) 冬ニラにおけるハウス内環境制御技術の確立 | | | | | |
| ① 換気及び湿度管理方法の改善 | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 | |
| ② 改善方法における炭酸ガス施用効果 | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 | |
| (2) ベルトランター利用技術の確立 | | | | | |
| ① 品目別の適応性検討 | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 | |
| ② 有望品目における栽培技術の確立 | | | | | |
| ア. コマツナにおける施肥及び水分供給方法の違いが生育に及ぼす影響 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 土壌・ 環境 チーム | H28～30 | 県単 | |
| イ. コマツナにおける局所加温の有無が生育に及ぼす影響 | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 | |
| ・ 革新的な省力栽培技術の開発 | | | | | 前期 |
| 1) 根深ネギの夏秋期出荷量不足打開に向けた安定生産技術の確立 | | | | | |
| (1) 「スーパー大苗」による夏越し作型安定化技術 | | | | | |
| ① 新たな夏越し作型における栽培管理方法の確立 | | | | | |
| ア. 品種及び定植時期が生育、収量に及ぼす影響 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 北部振 興局 | H27～29 | 県単 | |
| ② 現地実証試験 | | | | | |
| ア. 試験導入による労力及び生育、収量性の把握 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 豊肥振興局、 西部振興局 | H27～29 | 県単 | |
| 2) 新技術を核とした施設葉菜類の生産安定技術の確立 | | | | | |
| (1) ベルトランター利用技術の確立 | | | | | |
| ① 品目別の適応性検討 | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 | |
| ② 有望品目における栽培技術の確立 | | | | | |
| ア. コマツナにおける施肥及び水分供給方法の違いが生育に及ぼす影響 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 土壌・ 環境 チーム | H28～30 | 県単 | |
| イ. コマツナにおける局所加温の有無が生育に及ぼす影響 | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 | |
| ・ 市場動向に対応した輸出用かんしょ生産技術の確立 | | | | | 前期 |
| 1) 市場動向を見据えた露地野菜生産安定技術の確立 | | | | | |
| (1) 輸出向け小イモ生産技術の確立 | | | | | |
| ① 小イモ生産のための最適栽植密度の検討 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 中部振興局、 豊肥振興局 | H28～30 | 県単 | |
| ② 容器苗移植栽培技術の確立 | | | | | |
| ア. 育苗培土及び栽植密度の検討 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 中部振興局、 豊肥振興局 | H28～30 | 県単 | |
| イ. 苗床イモの活用 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 中部振興局、 豊肥振興局 | H28～30 | 県単 | |
| ・ トマトの低コスト養液栽培システムの開発 | | | H28該当無し | | 後期 |

農業研究部 (2/9)

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|--|--------------------|--|----------|----------|
| I 大課題、 1 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)、① | | | | |
| ・ 農産物の栄養分・機能性成分の数値化 | | | | |
| 1) 農林水産物輸出拡大に関わる研究開発 | | | | |
| (1) 栄養性や機能性を活かした研究開発 | | | | |
| ① 農産物の栄養成分・機能性成分表示に関わる技術支援 (県内農業参入企業対象) | 土壌・ 環境 チーム | (株)大分和 郷、(株)安 心院オーガ ニックファ ーム、(有)ワ タミファ ーム、(株) ohana本舗、 中部振興局、 北部振興局 | H27~28 | 県単 |
| ・ 高付加価値な内容成分を有する輸出用農産物技術の開発 | | | H28該当無し | |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・ いちごの県オリジナル品種の品種登録と普及 | | | | |
| 1) 県間連携によるイチゴ新品種の育成 | | | | |
| 第2期 目的とする特徴を持つ有望系統の選抜 | | | | |
| (1) 県間連携による品種育成と栽培技術の確立 | 果菜類 チーム | 山口県、鳥取 県、島根県、 広島県、岡山 県、長崎県、 九州農研セ | H28~30 | 県単 |
| (2) 育種効率化のための交配、選抜方法の確立 | | | | |
| ① 効率化技術を用いた交配、選抜による有望系統の育成 | | | | |
| ア. 実生選抜、二次選抜、三次選抜、四次選抜、五次選抜 | 果菜類 チーム | なし | H28~30 | 県単 |
| イ. 育成系統「大分6号」の栽培技術 | 果菜類 チーム | イチゴ品種育 成支援プロ | H28~30 | 県単 |
| ・ いちごの県オリジナル品種の育成 | | | H28該当無し | |
| ・ トマト新品種の選定 | | | | |
| 1) 「いつでも!大分産トマト」を目指した、省力・最適栽培管理技術の確立 | | | | |
| (1) 安定生産のための省力・出荷量平準化技術の確立(夏秋) | | | | |
| ① 中段密植栽培による出荷量平準化技術の確立 | | | | |
| ア. 品種比較試験 | 果菜類 チーム | なし | H26~28 | 県単 |
| ・ 糖度判定技術の迅速化 | | | H28該当無し | |
| ・ 農産物の機能性成分評価に関する研究 | | | H28該当無し | |
| ・ 新需要に対応した品種選抜と加工技術の開発 | | | H28該当無し | |
| ・ 地域特性に即した品種選定と栽培技術確立 | | | | |
| 1) DNAマーカーを用いた県育成品種識別法と効率的選抜育種技術の開発 | | | | |
| (1) わい性トルコギキョウ品種の識別技術の確立 | 果菜類 チーム | 花きグ ループ | H26~28 | 県単 |
| 3 マーケットインの商品(もの)づくりを加速のための技術開発 | | | | |
| ・ こねぎの冬期増収に向けた栽培技術の開発 | | | H28該当無し | |
| ・ 調製機械の効率化のための分析・改良提案 | | | H28該当無し | |
| ・ 市場動向に対応した白ねぎの夏秋期安定出荷技術の確立 | | | | |
| 1) 根深ネギの夏秋期出荷量不足打開に向けた安定生産技術の確立 | | | | |
| (1) 「スーパー大苗」による夏越し作型安定化技術 | | | | |
| ① 新たな夏越し作型における栽培管理方法の確立 | | | | |
| ア. 品種及び定植時期が生育、収量に及ぼす影響 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 北部振 興局 | H27~29 | 県単 |

農業研究部 (3/9)

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|--|------------|-------------|----------|----------|
| I大課題、 1中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)、① | | | | |
| ② 現地実証試験 | | | | |
| ア. 試験導入による労力及び生育、収量性の把握 | 葉根菜類・茶業チーム | 豊肥振興局、西部振興局 | H27～29 | 県単 |
| ・ ドリンク用茶の安定収量確保のため二番茶の収穫適期判定技術の開発 | | | | |
| 1) ドリンク茶栽培における収量・品質向上のための総合的管理技術の確立 | | | | |
| (1) 二番茶摘採適期予測技術の確立 | 葉根菜類・茶業チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| (2) 更新時期の検討 | 葉根菜類・茶業チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| (3) ドリンク施肥体系の検討 | 葉根菜類・茶業チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| ・ 白ねぎの土壌病害の防除技術の確立 | | | | |
| 1) 根深ネギの夏秋期出荷量不足打開に向けた安定生産技術の確立 | | | | |
| (1) 萎凋病および白絹病の防除技術 | | | | |
| ① 萎凋病および白絹病の発生実態の解明 | | | | |
| ア. 萎凋病の時期別発生消長調査 | 病害虫対策チーム | 北部振興局 | H27～29 | 県単 |
| イ. 白絹病の時期別発生消長調査 | 病害虫対策チーム | 北部振興局 | H27～29 | 県単 |
| ② 有効な薬剤の探索 | | | | |
| ア. 萎凋病に対する有効薬剤の検討 | 病害虫対策チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| イ. 白絹病に対する有効薬剤の検討 | 病害虫対策チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| ウ. 白絹病に対する薬剤防除体系の検討 | 病害虫対策チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| エ. 白絹病の耐性菌調査 | 病害虫対策チーム | 北部振興局 | H27～29 | 県単 |
| ③ 耕種的な防除対策の確立 | | | | |
| ア. 萎凋病に対する有効資材の検討 | 病害虫対策チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| ・ 夏秋トマトのすすかび病及び線虫類の防除対策 | | | | |
| 1) 夏秋トマトのすすかび病と線虫類に対する防除技術の確立 | | | | |
| (1) すずかび病対策 | | | | |
| ① 有効な薬剤の探索 | | | | |
| ア. 薬剤感受性検定 | 病害虫対策チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| イ. 体系試験 | 病害虫対策チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| ② 現地実証試験 | 病害虫対策チーム | 西部振興局、豊肥振興局 | H26～28 | 県単 |
| (2) 線虫対策 | | | | |
| ① 防除技術の確立 | | | | |
| ア. 液剤の灌注 | 病害虫対策チーム | なし | H26～28 | 県単 |

農業研究部（4／9）

| 試験研究課題名 I大課題、 1中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|---|------------------|---|----------|--------------|
| イ. 粒剤の防除効果比較 | 病害虫 対策 チーム | 豊肥振 興局 | H26～28 | 県単 |
| ② 現地実証試験 | | | | |
| ア. 液剤の防除効果 | 病害虫 対策 チーム | 豊肥振 興局 | H26～28 | 県単 |
| イ. キルパー灌水処理による防除効果 | 病害虫 対策 チーム | 豊肥振 興局 | H26～28 | 県単 |
| ・ 農産物の安全安心に関する研究（薬剤抵抗性害虫の天敵利用技術） | | | | |
| 1） ゲノム情報等を活用した薬剤抵抗性管理技術の開発委託事業 | | | | |
| （1） 大分県におけるネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの発生実態 | 病害虫 対策 チーム | 農研機構果樹 研、農研機構 中央農研、日 本曹達 (株)、宮崎 県、和歌山 県、豊肥振興 局、中部振興 局 | H26～30 | 国庫 (委託プロ) |
| （2） ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの奇主範囲の解明 | 病害虫 対策 チーム | 農研機構果樹 研、農研機構 中央農研、日 本曹達 (株)、宮崎 県、和歌山 県 | H26～30 | 国庫 (委託プロ) |
| （3） 生物的防除資材による防除体系の検討（テントウムシ資材） | 病害虫 対策 チーム | 農研機構果樹 研、農研機構 中央農研、日 本曹達 (株)、宮崎 県、和歌山 県、豊肥振興 局、中部振興 局 | H26～30 | 国庫 (委託プロ) |
| （4） 生物防除資材による防除体系の検討（糸状菌製剤） | 病害虫 対策 チーム | 農研機構果樹 研、農研機構 中央農研、日 本曹達 (株)、宮崎 県、和歌山 県、豊肥振興 局、中部振興 局 | H26～30 | 国庫 (委託プロ) |
| （5） 有効なトラップ資材の検討 | 病害虫 対策 チーム | 農研機構果樹 研、農研機構 中央農研、日 本曹達 (株)、宮崎 県、和歌山 県 | H26～30 | 国庫 (委託プロ) |
| 2） 次世代バンカー資材キットによるアブラムシ類基盤的防除技術の実証・普及 | | | | |
| （1） コレマンアブラバチとナケルクロアブラバチ混合製剤と次世代バンカー法による防除効果の検討 | | | | |
| ① ピーマンでの実証試験 | 病害虫 対策 チーム | 農研機構中央 農研、アグリ 総研(株)、 豊肥振興局 | H28～30 | 国庫 (農食事業) |
| ② イチゴでの実証試験 | 病害虫 対策 チーム | 農研機構中央 農研、アグリ 総研(株)、 福岡県農林 試、北部振興 局 | H28～30 | 国庫 (農食事業) |
| ・ シソモザイク病及びびさび症の防除体系の確立 | | | | |
| 1） シソサビダニが引き起こすオオバモザイク病およびびさび症の防除体系確立 | | | | |
| （1） 農薬による防除技術の確立 | | | | |
| ① シソサビダニの発生消長調査 | 病害虫 対策 チーム | 法政大学、高 知県、愛知 県、農研機構 | H27～29 | 国庫 (農食事業) |

農業研究部 (5/9)

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|--|--------------------|--------------------------------|----------|--------------|
| I 大課題、 1 中課題 ・ 研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)、① | | | | |
| ② ダニ剤のシソサビダニに対する残効性調査 | 病害虫 対策 チーム | 法政大学、高 知県、愛知 県、農研機構 | H27～29 | 国庫 (農食事業) |
| ③ シソモザイク病に対する抵抗性誘導剤の効果 | 病害虫 対策 チーム | 法政大学、高 知県、愛知 県、農研機構 他 | H27～29 | 国庫 (農食事業) |
| (2) 大分県における発生実態調査及び防除マニュアルの実証 | | | | |
| ① シソモザイク病の発消長調査 | 病害虫 対策 チーム | 高知県、愛知 県、農研機 構、中部振興 局 | H27～29 | 国庫 (農食事業) |
| ② アンケート調査 | 病害虫 対策 チーム | 中部振 興局 | H27～29 | 国庫 (農食事業) |
| ・ 茶の高品質省力栽培・加工技術の開発 | | | H28該当無し | |
| ・ 新資材による低コスト施肥技術の開発 | | | | |
| 1) 亜リン酸肥料を用いた夏秋ピーマン安定生産技術の確立 | | | | |
| (1) 亜リン酸が及ぼす影響解明 | 土壌・ 環境 チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| ① 亜リン酸施肥量の解明 | 土壌・ 環境 チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| ② 土壌化学性に及ぼす影響 | | | | |
| (2) 施肥基準の確立 | | | | |
| ① 最適な亜リン酸資材の検討 | 土壌・ 環境 チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| ② 最適な施用時期の検討 | 土壌・ 環境 チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| ・ I P M管理技術を活用した防除体系の確立 | | | H28該当無し | |
| ・ 有機農業の支援 | | | H28該当無し | |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・ 加工・業務用野菜栽培技術の確立 | | | | |
| 1) 市場動向を見据えた露地野菜生産安定技術の確立 | | | | |
| (1) 業務用加工キャベツの周年供給体制の確立 | | | | |
| ① 4、5月どり安定生産技術の確立 | | | | |
| ア. 4月どり | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| イ. 5月どり | 葉根菜 類・茶業 チーム | なし | H28～30 | 県単 |
| ・ 果菜類の安定生産技術の開発 | | | | |
| 1) 「いつでも!大分産トマト」を目指した、省力・最適栽培管理技術の確立 | | | | |
| (1) 安定生産のための省力・出荷量平準化技術の確立(夏秋) | | | | |
| ① 中段密植栽培による出荷量平準化技術の確立 | | | | |
| ア. 二作型の検討 | 果菜類 チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| イ. 仕立て方の検討 | 果菜類 チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| ウ. 品種比較試験 | 果菜類 チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| ② かん水施肥栽培システムの高機能化による出荷量平準化技術の確立 | | | | |
| ア. 飽差管理の検討 | 果菜類 チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| (2) 最適栽培管理技術の確立(冬春トマト) | | | | |
| ① 統合環境制御技術の確立 | 果菜類 チーム | なし | H26～28 | 県単 |

農業研究部 (6 / 9)

| 試験研究課題名 | 担当 | 連携 | 研究 | 予算 |
|--|--------------------|--|--------|--------------|
| I大課題、 1中課題 ・研究項目 | チーム | 機関 | 期間 | 区分 |
| ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)、① | | | | |
| 2) ICTを活用した統合環境制御技術の確立による大規模園芸施設による周年・省力生産技術の確立 | 果菜類 チーム | 農研機構野菜 花き研究部 門、農研機構 中央農業研究 セ、北海道、 宮崎県、大分 県地域農業振 興課、各振興 局、タカヒコ アグロビジネ ス、ベストク ロップ | H28～30 | 国庫 (農食事業) |
| 3) 高単収を実現する環境計測技術の確立、イチゴ大規模経営体を支援・育成する生産システムの確立 | 果菜類 チーム | 九次、長崎 県、佐賀県、 キヤノンマー ケティング ジャパン、キ ヤノンITソ リューション ズ、産科技 セ、赤野農 園、アクトい ちごファー ム、豊潤、中 原農場 | H28～31 | 国庫 (農食事業) |
| ・ 夏秋ピーマンの省力・安定生産技術の開発 | | | | |
| 1) 夏秋ピーマン産地の次代を担う省力・安定生産技術の確立 | | | | |
| (1) 施肥管理省力化技術の確立 | | | | |
| ① 施肥方法の改善 | 果菜類 チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| (2) 栽培および出荷調整作業省力化技術の確立 | | | | |
| ① 品種選定 | 果菜類 チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| ② 株間と整枝方法の改善 | 果菜類 チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| (3) 夏期の高温対策技術の確立 | | | | |
| ① 遮光技術の確立 | 果菜類 チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| ・ 低コスト耐候型施設の開発 | | | | |
| ・ 養液栽培における生産安定技術の開発 | | | | |
| 1) 水耕トマト低段密植栽培における養液組成安定技術の確立 | 土壌・ 環境 チーム | なし | H28 | 県単 |
| ・ 大規模茶園における安定多収穫栽培と品質安定技術(効率的施肥)の開発 | | | | |
| 1) 茶試験圃場の育成 | | | | |
| (1) 育成系統評価試験・短期被覆試験 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 農研機構 野茶研 他 | H28～30 | 県単 |
| ・ 高品質・安定生産・省力化のための茶園管理技術の開発 | | | | |
| H28該当無し | | | | |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・ 環境に優しく地域資源を活用した農業生産技術の開発 | | | | |
| 1) 地域資源「大麦焼酎粕」活用技術の確立 ～普通作物・野菜における焼酎粕濃縮液の肥料成分利用技術の開発～ | | | | |
| (1) 濃縮液特性解明 | | | | |
| ① 分解特性の解明 | 土壌・ 環境 チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| ② 窒素成分発現量の解明 | | | | |
| ア. 培養法 | 土壌・ 環境 チーム | なし | H27～29 | 県単 |

農業研究部（7／9）

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|-------------------------------|--------------|---------------------------|----------|----------|
| I 大課題、 1 中課題 ・ 研究項目 | | | | |
| ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | |
| イ. 栽培試験（畑作）（普通作） | 土壌・環境 チーム | 水田農業 グループ | H27～29 | 県単 |
| （2）環境に及ぼす影響解明 | | | | |
| ア. 土壌化学性調査 | 土壌・環境 チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| イ. 地下浸透水調査 | 土壌・環境 チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| （3）現地実証試験 | | | | |
| 2）製鋼スラグを利用した野菜類栽培における多面的効果の検証 | | | | |
| （1）病害発生抑制効果の確認 | | | | |
| ① フザリウム病発生抑制効果確認 | 土壌・環境 チーム | 病虫害 対策 チーム | H28～30 | 県単 |
| ② 白絹病発生抑制効果確認 | 土壌・環境 チーム | 病虫害 対策 チーム | H28～30 | 県単 |
| （2）品質向上効果の確認 | | | | |
| ① 葉菜類の成分増加効果確認 | 土壌・環境 チーム | 関係振 興局 | H28～30 | 県単 |
| ② 果菜類の成分増加効果確認 | 土壌・環境 チーム | 関係振 興局 | H28～30 | 県単 |
| ③ 根菜類の成分増加効果確認 | 土壌・環境 チーム | 関係振 興局 | H28～30 | 県単 |
| （3）環境負荷への影響検討 | | | | |
| ① 土壌化学性への影響調査 | 土壌・環境 チーム | 関係振 興局 | H28～30 | 県単 |
| ② 地下浸透水への影響調査 | 土壌・環境 チーム | 関係振 興局 | H28～30 | 県単 |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・ 農業情報の提供（生育状況、気象データ） | | | | |
| 1）経営マインドを持った力強い担い手の育成及び定着支援 | | | | |
| （1）新規就農者の定着 | | | | |
| ① 新規就農の経営実態把握調査 | 企画指 導担当 | 地域農業振興 課、各振興局 | H28 | 県単 |
| 2）農業情報の提供（気象データ） | | | | |
| ・ 土壌情報の活用 | | | | |
| 1）農地土壌炭素貯留等基礎調査事業 | 土壌・環境 チーム | 振興局集落・ 水田班、野菜 班、畜産班 | 長期 | 国庫委託 |

農業研究部（8／9）

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|--|--------------------|-----------------------------------|----------------|-----------------|
| I大課題、 1中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | |
| ・ 土壌肥料検査業務 | 土壌・ 環境 チーム | なし | 長期 | 県単、 一部委 託 |
| ・ 土壌環境調査の実施による企業参入支援並びにほ場整備等の支援 | 土壌・ 環境 チーム | なし | 長期 | 県単、 一部委 託 |
| ・ 病害虫発生予察情報（普通作・野菜・果樹・茶） | | | | |
| 1) 病害虫発生予察事業 | | | | |
| (1) 発生予察技術支援対策 | | | | |
| ① 薬剤感受性及びウイルス保毒虫率の検定 | 病害虫 対策 チーム | なし | H28～30 | 県単、 一部国 庫 |
| 2) チャの病害虫防除に関する研究 | | | | |
| (1) チャの主要病害虫の発生予察に関する試験 | | | | |
| ① 主要病害虫の発生状況調査 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 病害虫対策 チーム、東 部、中部、北 部振興局 | H28～30 (長期) | 県単 |
| ② チョウ目害虫、クワシロカイガラムシ等の発生予察調査 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 病害虫対策 チーム、東 部、中部、北 部振興局 | H28～30 (長期) | 県単 |
| ・ ウィルスフリー苗の作出 | | | | |
| 1) イチゴのウィルスフリー苗育成 | 果菜類 チーム | なし | 長期 | 県単 |
| 2) カンショの茎頂培養によるウィルスフリー苗育成 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 果菜類 チーム | 長期 | 県単 |
| 3) カンショの品種選定 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 九沖農 研セ | 長期 | 県単 |
| ・ 地域固有の動植物の保存 | 企画指導 担当 | 各振興局 | 長期 | 県単 |
| ・ 委託薬剤試験 | | | | |
| 1) 安全生産技術に関する研究 | | | | |
| (1) 病害虫防除対策 | | | | |
| ① 病害に対する薬剤選定 | 病害虫 対策 チーム | 各振興局 | 長期 | 県単、 一部委 託 |
| ② 虫害に対する薬剤選定 | 病害虫 対策 チーム | なし | 長期 | 県単、 一部委 託 |
| 2) チャの病害虫防除に関する研究 | | | | |
| (2) チャの主要病害虫を対象とした委託試験 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 日本植物防疫 協会、九防 協、福岡県、 鹿児島県 | H28 | 県単 |
| ① 新農薬の実用性判定試験（日本植物防疫協会試験） | | | | |
| ア. チャトゲコナジラミ | 葉根菜 類・茶業 チーム | 日本植物防疫 協会 | H28 | 県単 |
| ② 登録農薬の有効利用法の検討（九防協連絡試験） | | | | |
| ア. チャハマキの効率適防除試験 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 九防協 | H28 | 県単 |
| イ. カンザワハダニの効率適防除試験 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 九防協 | H28 | 県単 |
| ウ. チャトゲコナジラミの効率適防除法の確立1 | 葉根菜 類・茶業 チーム | 九防協 | H28 | 県単 |

農業研究部（9／9）

| 試験研究課題名 | | 担当 | 連携 | 研究 | 予算 |
|------------------------|-------------------------|-------------------------------|-------------|---------|----|
| I大課題、 1中課題 ・研究項目 | | チーム | 機関 | 期間 | 区分 |
| ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | | |
| | エ. チャトゲコナジラミの効率適防除法の確立2 | 葉根菜類・茶業チーム | 九防協 | H28 | 県単 |
| | （3）チャの病害虫防除対策試験 | | | | |
| | ① 主要病害虫の薬剤感受性検定 | | | | |
| | ア. チャノミドリヒメヨコバイの薬剤感受性検定 | 葉根菜類・茶業チーム | 中部振興局、豊肥振興局 | H26～28 | 県単 |
| ・マイナー作物農薬残留調査 | 病害虫対策チーム | 温州みかんチーム、中部振興局、西部振興局、大分県薬剤師協会 | H28～30 | 県単、一部国庫 | |

3. 研究成果等の公表及び情報発信

（1）刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 頁数 | 部数 |
|---------------------|------------|-----|-----|
| 平成28年度植物防疫事業成績書（年報） | H29. 3. 31 | 70 | 300 |
| 平成27年度農業研究部試験研究成績書 | H28. 7月 | 348 | 50 |

（2）学会誌、専門誌等への投稿

| 執筆者 | 論文名 | 掲載誌名 | 巻（号） | 掲載頁 |
|------------------------------|--|--------------------|------|-------|
| 福本律子・鈴木智範・山崎修一 | 夏秋トマト栽培におけるすすかび病の発病と植物体内硝酸イオン濃度との関係 | 九州病害虫研究会報 | 第62巻 | 138 |
| 世古雅一・田中啓二郎 | 大分県の白ネギにおける萎凋病の発生消長と耕種的防除 | 九州病害虫研究会報 | 第62巻 | 139 |
| 姫野和洋・松浦明・岡崎真一郎・玉野井昭・山崎真居・土田聡 | ネオニコチノイド剤抵抗性ワタアブラムシの寄主別増殖率の調査 | 九州病害虫研究会報 | 第62巻 | 143 |
| 岡崎真一郎・井上美樹・上杉龍士・長坂幸吉 | ピーマン施設内の三尺ソルゴーに発生したアブラムシ類から確認された一次寄生蜂種 | 九州病害虫研究会報 | 第62巻 | 144 |
| 田中啓二郎・姫野和洋・安倍崇博・後藤英世 | 大分県におけるシソモザイク病の発生実態調査 | 日本植物病理学会 | 第83巻 | 78-79 |
| 山野秀真 | 冬春トマトにおける変温管理を用いた炭酸ガス施用効果の実証 | 九州農業研究発表会専門部会発表要旨集 | 第79回 | 未印刷 |

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|---------------|--------------------------------------|----------------------|-------------------------------|
| H28. 9. 7 | 第79回九州農業研究発表会 | 武政彰 | 大分県における新規就農者の経営実態把握 |
| H28. 9. 14-16 | 日本線虫学会大会第24回大会 | 鈴木智範・山野秀真 | 大分県におけるナンヨウネコブセンチュウの発生 |
| H28. 10. 20 | 九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会 遺伝子研究連絡会 | 深蔵知花 | 日本一のホオズキ産地を支える優良系統育種技術の開発 |
| H28. 11. 9 | 第92回九州病害虫研究会研究発表会 | 世古雅一・田中啓二郎 | 大分県における白ネギ萎凋病の発生消長調査及び防除体系の検討 |
| H28. 11. 9 | 第92回九州病害虫研究会研究発表会 | 鈴木智範・山崎修一 | 大分県の夏秋トマトほ場におけるネコブセンチュウ類の線虫種 |
| H28. 11. 9 | 第92回九州病害虫研究会研究発表会 | 田中啓二郎・姫野和洋・安倍崇博・後藤英世 | 大分県におけるシソモザイク病の発生実態調査 |
| H28. 12. 8 | 平成28年度第30回いも類研究会 | 大仲真喜子 | 「べにはるか」の腐敗果軽減技術 |
| H29. 1. 26 | 九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会 | 大坪亮介 | ベルトプランターによる根深ネギ大苗育苗技術の確立 |
| H29. 1. 26 | 九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会 | 山野秀真 | 夏秋トマトの整枝法改善による出荷平準化の検討 |
| H29. 1. 26 | 九州沖縄農業試験研究推進会議 野菜・花き推進部会 | 山賀陽子 | 夏秋トマトにおける優良品種の選定 |
| H29. 2. 2 | 第93回九州病害虫研究会研究発表会 | 鈴木智範 | カーバムナトリウム塩液剤による省力的線虫防除方法の検討 |
| H29. 2. 2 | 点滴灌水普及説明会 | 大坪亮介 | 大分県におけるネギの生産の現状と点滴灌水試験事例 |
| H29. 2. 9-10 | 九州沖縄地区植物防疫関係者研修会 | 田中啓二郎 | コリアンダー褐斑病（仮称） |

(4) 研究成果発表会

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題数 | 参加者数 |
|-----------------------------------|------------|----------------|-------|------|
| 平成29年度第1回 農林水産試験研究状況報告会（副知事報告） | H28. 7. 29 | 県庁舎本館 71会議室 | 1 | 50 |
| イチゴオリジナル品種「大分6号」育成報告（知事報告） | H29. 1. 26 | 知事室 | 1 | 10 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考（共催、要請機関等） |
|-------------|-----------------------------------|------------|------|---------------------------|
| H28.5.2 | 一番茶加工研修 | 農業研究部 | 6 | 大分県茶業協会 |
| H28.5.17 | 果樹アザミウマ研修会 | 杵築市 | 50 | 地域農業振興課 |
| H28.5.24 | 普及指導員専門技術研修（安全農業） | 農業研究部 | 20 | 地域農業振興課 |
| H28.6.1 | サニープレイスファーム現地検討会（1回目） | 佐伯市 | 8 | H29.2.20に第2回目を実施 |
| H28.6.9 | 無人ヘリ講習会 | 産業科学技術センター | 50 | 地域農業振興課 |
| H28.6.13 | 専門技術研修（基礎・茶） | 農業研究部 | 6 | 地域農業振興課 |
| H28.6.16 | 社会科学習 | 大分市 | 171 | 大分市立西の台小学校 |
| H28.6.16 | 普及指導員専門技術研修（野菜・基礎） | 農業研究部 | 6 | 地域農業振興課 |
| H28.7.5 | 課題解決研修（ベストブレンド） | 農業研究部 | 24 | 地域農業振興課 |
| H28.7.6 | ピーマン連絡協議会研修会 | 竹田市 | 55 | 全農 |
| H28.7.21 | 第48回大分県茶業品評会審査会 | 農業研究部 | 13 | 大分県茶業協会 |
| H28.8.23 | 大分6号現地検討会 | 杵築市 | 8 | 地域農業振興課 |
| H28.8.23 | 大分県茶業協会理事会 | 別府市 | 30 | 大分県茶業協会 |
| H28.8.25 | ドリンク茶専用法人生産対策研修会 | 農業研究部 | 29 | 県内ドリンク茶法人 |
| H28.9.21 | 大分味一ねぎ生産部会宇佐支部トレーニングファーム講習会 | 北部振興局 | 10 | 北部振興局 |
| H28.10.12 | 味一ねぎ部会研修会 | 北部振興局 | 8 | 北部振興局 |
| H28.10.12 | 普及指導員専門技術研修（野菜・基礎） | 農業研究部 | 20 | 地域農業振興課 |
| H28.10.28 | 平成28年度水田地力対策検討会 | 花きグループ | 27 | 地域農業振興課 |
| H28.11.9-10 | 普及指導員専門技術研修（野菜・基礎） | 農業研究部 | 6 | 地域農業振興課 |
| H28.11.21 | 平成28年度就農学校及びビファーマーズスクール運営主体研修会 | 大分市 | 43 | 新規就業経営体支援課 |
| H28.11.28 | 施肥・防除対策研修会 | 大分市 | 150 | 地域農業振興課 |
| H28.12.6 | ピーマン部会研修会 | 豊後大野市 | 100 | 大分県農協豊肥事業部 |
| H28.12.6-7 | 平成28年度九州沖縄農業研究推進会議野菜・花き推進部会イチゴ研究会 | 大分市、杵築市 | 58 | 九州沖縄農業試験研究推進会議 |
| H28.12.15 | 病害虫防除講習会 | 杵築市山香 | 10 | 東部振興局 |
| H28.12.22 | パブリカ成分分析手法現地研修会 | 九重町 | 8 | 西部振興局 |
| H29.1.12 | 農業大学校土壌分析研修 | 農業研究部 | 8 | 大分県農業大学校 |
| H29.1.12 | トマト部会栽培講習会 | 竹田市 | 50 | 大分県農協豊肥事業部 |
| H29.1.17 | 農業大学校土壌分析研修 | 農業研究部 | 8 | 大分県農業大学校 |
| H29.1.25 | （南部局管内）イチゴ新規就農者研修会 | 農業研究部 | 6 | 南部振興局 |
| H29.1.30 | J A おおいた大鶴野菜部会研修会 | 農業研究部 | 20 | 西部振興局 |
| H29.1.31 | 大分6号現地検討会 | 佐伯市 | 8 | 地域農業振興課 |
| H29.2.9 | 豊後大野市新農業者協議会先進地視察研修 | 農業研究部 | 14 | 豊後大野市 |
| H29.2.9-10 | 九州・沖縄地区植物防疫関係者研修会 | 那覇市 | 70 | 九州農政局、九州沖縄地区病害虫防除所職員連絡協議会 |
| H29.2.13 | ドリンク茶専用法人生産対策研修会 | 花きグループ | 23 | 園芸振興室 |
| H29.2.15 | 農薬指導士資格試験認定研修 | 大分市 | 150 | 地域農業振興課 |
| H29.2.24 | オオバ研修会 | 大分市 | 30 | 中部振興局 |
| H29.2.28 | 平成28年度大分県自給飼料増産セミナー | 大分市 | 44 | 畜産技術室、大分県草地飼料協会 |
| H29.3.7 | 白ネギ研修会 | 農業研究部 | 30 | 園芸振興室 |
| H29.3.9 | 専門技術研修（基礎・茶） | 農業研究部 | 5 | 地域農業振興課 |
| H29.3.23 | 大分なら広域共販技術者協議会役員会 | 大分市 | 15 | 園芸振興室 |

(2) 受入研修

① 長期研修者受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 |
|-------|----|------|
| 生産者 | 2 | 20 |
| 団体等職員 | 1 | 17 |
| 普及指導員 | 5 | 34 |
| 児童・生徒 | 1 | 36 |
| その他 | 3 | 14 |
| 計 | 12 | 121 |

※小中高校

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|---------------------------|------------------------------------|---|
| 一番茶における適期摘採予測による収穫計画作成と実施 | 一番茶における適期摘採予測による収穫計画の作成と実施 | ドリンク茶生産法人ごとに一番茶の摘採計画を立てた。また摘採期間中は適宜成分分析を行い品質合格率の向上を目指した。 |
| 西日本一の夏秋ピーマン産地の土台を支える技術の確立 | IPMによるアザミウマ防除技術のパプリカ及び野津ピーマン産地への普及 | 現地のパプリカ栽培圃場で2種類の天敵資材を使用し防除効果を検証した。 |
| 栽培情報モニタリングによるイチゴの最適管理技術 | イチゴの単収向上のためのハウス内栽培環境管理技術の普及 | 現地実証圃を佐伯市、玖珠町、豊後高田市の3カ所に設置してハウス内環境データを測定し単収向上に向けたデータ分析を行った。 |

II-2 水田農業グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組織 | 職種 | 職員 | | 技師 | 労務 技師 | 業務 技師 | 事務 補佐 | 計 | 備考 |
|---------|----|----|----|----|----------|----------|----------|----|-----------|
| | | 事務 | 技術 | | | | | | |
| グループ長 | | | 1 | | | | | 1 | |
| 管理担当 | | 3 | | 1 | | | | 4 | |
| 企画指導担当 | | | 2 | | | | | 2 | 広域普及指導員1名 |
| 水田農業チーム | | | 8 | 5 | | | | 13 | |
| 計 | | 3 | 11 | 6 | 0 | 0 | 0 | 20 | |

(3) 業務

- ①水田農業の確立に関する試験研究
- ②水稲・麦・大豆の新品種選定及び栽培技術改善
- ③水稲・麦・大豆優良種子生産事業

2. 試験研究課題

農業研究部 水田農業グループ

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|--|-------------|-----------------------|----------|----------|
| I 大課題、 1中課題 1) 研究項目 | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | |
| ・ ICT、RTを活用した生産環境情報収集による低コスト化技術の開発 | | | H28該当なし | |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・ 酒造好適米品種の選定と栽培技術の確立 | | | | |
| 1) 県産米利用拡大に向けた酒米生産技術の確立 | 水田農業 チーム | 県酒造組合 振興局 | H28～30 | 県単 |
| ・ 食味、機能性、安全性などに優れた品種の選定と栽培技術の確立 | | | | |
| 1) 水稲・麦・大豆の品種選定 | 水田農業 チーム | (国研) 農研機構 農集課、振興局 | H28～30 | 県単 |
| ・ 地場企業に向けた麦類・大豆の品種選定と省力栽培技術の確立 | | | | |
| 1) 地場醸造企業への安定供給に向けた高品質麦類の生産技術の確立 | 水田農業 チーム | 県酒造組合 県味噌醸造工組合 | H27～29 | 県単 |
| 3 マーケットインの商品(もの)づくりを加速のための技術開発 | | | | |
| ・ 酒造好適米品種の選定と栽培技術の確立 | | | H28該当なし | |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・ 土地条件に対応した水稲直播栽培等低コスト栽培技術の確立 | | | | |
| 1) 水稲乾田直播栽培を基軸とした土地利用型作物の超低コスト栽培法の開発 | 水田農業 チーム | (国研) 農研機構 アグリテクノ矢崎 | H26～28 | 県単 国庫 |
| ・ 水田フル活用に向けた新規需要米 ※、麦・大豆の低コスト安定栽培技術の確立 | | | H28該当なし | |
| ・ 農地集積や大区画化に対応した水田営農システムの確立 | | | H28該当なし | |
| ・ 帰化植物、薬剤抵抗性等の難防除雑草の防除技術の開発 | | | | |
| 1) 生育制御と雑草防除による大豆の高位安定生産技術の確立 | 水田農業 チーム | (国研) 農研機構 振興局 | H27～29 | 県単 国庫 |
| ・ 水田の省力管理技術の開発 | | | H28該当なし | |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・ 焼酎粕等の未利用資源の活用による地域循環型栽培法の確立 | | | | |
| 1) 地域資源「大麦焼酎粕」活用技術の確立 ～普通作物・野菜における焼酎粕濃縮液の肥料成分利用技術の開発～ | 水田農業 チーム | 三和酒類(株)、農 業研究部、振興局 | H27～29 | 国庫 |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・ 水稲、麦類、大豆の作柄判定調査の情報提供による生産指導支援 | | | | |
| 1) 水稲、麦類、大豆の作柄判定調査 | 水田農業 チーム | 農集課、振興局 | 長期 | 県単 |
| ・ 主要農作物(水稲、麦類、大豆)の優良種子管理 | | | | |
| 1) 主要農作物等種子対策事業 | 水田農業 チーム | 農集課、振興局 | 長期 | 県単 |

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 頁数 | 部数 |
|--|------------|-----|-------|
| 大分県における大豆難防除雑草の発生実態と対策 | H29. 2. 21 | 20 | 1,000 |
| 大分つや姫栽培のポイント 平成28年度版 (県農協発刊、水田農業グループ原稿提供) | H29. 2. 26 | 7 | 1,000 |
| 水稲乾田直播栽培マニュアル (暫定版) | H29. 2. 28 | 39 | 30 |
| 平成28年産大分県飼料用米栽培マニュアル | H29. 3. 31 | 16 | 1,500 |
| 水田夏作試験成績書 | H29. 3. 21 | 248 | 60 |
| 水田冬作試験成績書 | H29. 3. 21 | 110 | 60 |

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

| 執筆者 | 論文名 | 掲載誌名 | 巻(号) | 掲載頁 |
|---|---|--------------------------------|--------------|------------------|
| 河野 礼紀 | 大分県の大豆作における難防除雑草の発生実態 | 植調 | 第50巻 第9号 | p14~18 |
| 森本 美和、近乗 偉夫 | センチピードグラスの直播による畦畔管理の省力・低コスト技術 の開発 | 植調 | 第50巻 第12号 | p8~10 |
| 山崎 哲 | 大分県の大豆作における雑草の発生実態 | 九州の雑草 | 第46号 | p2~3 |
| 近乗 偉夫、森本 美和 | センチピードグラスの直播による畦畔管理の省力・低コスト技術 の開発 | 九州の雑草 | 第46号 | p4~7 |
| 河野 礼紀 | 機械除草と生育期除草剤によるカロライナツクサ防除技術の検 討 | 九州の雑草 | 第46号 | p8~10 |
| Mitsuhiro Matsuo, Taira Sakai and Yoshiki Kawano | Seed heteromorphism in carolina dayflower (Commelina caroliniana Walter) | Weed Biology and Management | Volume 16 | pages 169-176 |

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|----------|---|---|---------------------------------------|
| H28.7.26 | 九州雑草防除研究会 | 近乗 偉夫 ・森本 美和 | センチピードグラスの直播による畦畔管 理の省力・低コスト技術の開発 |
| H28.7.26 | 九州雑草防除研究会 | 山崎 哲 | 大分県の大豆作における雑草の発生実態 |
| H28.7.26 | 九州雑草防除研究会 | 河野 礼紀 | 機械除草と生育期除草剤によるカロライ ナツクサ防除技術の検討 |
| H28.9.7 | 九州農業研究発表会 作物部会(水田作)／日 本作物学会九州支部第93回講演会 | 財前裕一・清水康 弘・大窪恵美子・墨 谷荘平・白石真貴 夫・安道結香 | 醤油用小麦「ミナミノカオリ」における 施用窒素に対する吸収量の解析 |
| H28.9.29 | 平成28年度九州地域飼料用米推進会議 | 河野 礼紀 | 大分県における地域資源「大麦焼酎粕」 活用技術の開発 |
| H29.2.2 | 平成28年度高速高精度汎用播種機に係る成 績検討会 | 近乗 偉夫 | 水稲乾田直播栽培を基軸とした土地利用 型作物の超低コスト栽培法の開発 |

(4) 研究成果発表会

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題(発表者) | 参加者数 |
|---------------------------------------|----------------|----------------|--|------|
| 平成28年度第2回農林 水産研究指導センター 研究状況報告会 | 平成28年 11月7日 | 県庁舎本館 91会議室 | 水稲乾田直播栽培を基軸とした土地利用型 作物の超低コスト栽培法の開発 (水田農業グループ 水田農業チーム 主幹研究員(TL) 近乗 偉夫) | 55名 |
| 平成28年度農林水産部 研究・普及活動状況報 告会(知事報告) | 平成29年 1月27日 | 知事室 第一応接室 | 水稲乾田直播栽培を基軸とした土地利用型 作物の超低コスト栽培法の開発 (水田農業グループ 水田農業チーム 主幹研究員(TL) 近乗 偉夫) | 18名 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考（共催、要請機関等） |
|-------------|---------------------------|----------|------|-----------------|
| H28. 6. 6 | 普及員研修（普通作：新規） | 水田農業グループ | 3 | 地域農業振興課主催 |
| H28. 6. 21 | 大豆播種前栽培研修会 | 由布市 | 30 | 中部振興局から要請 |
| H28. 6. 22 | 豊肥局実践力強化研修 | 竹田市 | 11 | 豊肥振興局から要請 |
| H28. 7. 5 | 宮崎県西都市農協青年部視察研修 | 水田農業グループ | 8 | 宮崎県西都市から要請 |
| H28. 8. 1 | ふるさと「しごと」フォーラム（食味試験実習） | 大分市 | 33 | 高校教育課から要請 |
| H28. 8. 2 | 中部局経営研修会 | 大分市 | 5 | 中部振興局から要請 |
| H28. 8. 8 | 大豆摘芯研修会 | 竹田市 | 20 | 豊肥振興局から要請 |
| H28. 8. 18 | 水田経営発展塾 | 大分市 | 50 | 農地活用・集落営農課から要請 |
| H28. 8. 18 | 大豆摘芯現地実演 | 竹田市 | 15 | 豊肥振興局から要請 |
| H28. 8. 23 | 東部局専門技術研修基礎 | 国東市 | 3 | 東部振興局から要請 |
| H28. 8. 24 | 専門技術研修基礎 | 水田農業グループ | 3 | 地域農業振興課主催 |
| H28. 8. 29 | 東部地区水田農業研究会視察研修 | 水田農業グループ | 19 | 東部振興局から要請 |
| H28. 8. 30 | 作物課題解決研修 | 水田農業グループ | 38 | 地域農業振興課主催 |
| H28. 9. 21 | 水田の担い手の規模拡大及びコスト低減に向けた検討会 | 大分市 | 10 | 農地活用・集落営農課から要請 |
| H28. 9. 27 | 米集荷・麦大豆栽培研修会 | 宇佐市 | 100 | 農地活用・集落営農課から要請 |
| H28. 10. 3 | 日出町飼料米生産者研修会 | 水田農業グループ | 21 | 日出町から要請 |
| H28. 10. 11 | 第2回水田の担い手の規模拡大及びコスト低減検討会 | 大分市 | 10 | 農地活用・集落営農課から要請 |
| H28. 10. 24 | 飼料用米専用品種研修会 | 宇佐市 | 20 | 農地活用・集落営農課から要請 |
| H28. 10. 28 | 水田地力対策検討会 | 別府市 | 28 | 農地活用・集落営農課主催 |
| H28. 11. 17 | 水田作関係スマート農業等勉強会 | 大分市 | 40 | 農地活用・集落営農課主催 |
| H28. 11. 28 | 施肥防除対策研修会 | 大分市 | 100 | 地域農業振興課主催 |
| H28. 11. 29 | 普及方法研修（基礎） | 大分市 | 3 | 地域農業振興課主催 |
| H28. 12. 14 | 佐賀県西松浦農改視察研修 | 水田農業グループ | 2 | 佐賀県西松浦農改から要請 |
| H28. 12. 15 | 豊後高田市畦畔管理視察 | 水田農業グループ | 15 | 豊後高田市から要請 |
| H29. 1. 23 | 耕畜連携研修会 | 別府市 | 15 | 地域農業振興課主催 |
| H29. 1. 23 | 大阪府岬町農業委員視察研修 | 水田農業グループ | 25 | 大阪府岬町農業委員会から要請 |
| H29. 2. 1 | 山香地区つや姫栽培研修会 | 杵築市 | | 東部振興局から要請 |
| H29. 2. 1 | 南部地区肉用牛産地活性化研修会 | 佐伯市 | 100 | 南部振興局から要請 |
| H29. 2. 3 | 県麦大豆共励会表彰式、研修会 | 宇佐市 | 16 | 農地活用・集落営農課から要請 |
| H29. 2. 14 | つや姫コンテスト表彰式・研修会 | 別府市 | 80 | 農地活用・集落営農課から要請 |
| H29. 2. 15 | 農薬指導士養成研修 | 大分市 | 121 | 地域農業振興課から要請 |
| H29. 2. 17 | 福岡県川崎町農業委員会視察 | 水田農業グループ | 10 | 福岡県川崎町農業委員会から要請 |
| H29. 2. 23 | 水田農業経営発展塾 | 大分市 | 30 | 地域農業振興課から要請 |
| H29. 2. 28 | 作物課題解決研修 | 水田農業グループ | 36 | 地域農業振興課から要請 |
| H29. 3. 9 | 農事研修会 | 別府市 | 35 | 農薬販売協同組合から要請 |
| H29. 3. 14 | 実践力強化研修、 | 大分市 | 5 | 地域農業振興課主催 |
| H29. 3. 15 | スマート農業勉強会 | 大分市 | 15 | 地域農業振興課主催 |

(2) 受入研修

①長期研修者受入

なし

②生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 |
|----------|----|------|
| 生産者 | 3 | 44 |
| 団体等職員 | 1 | 19 |
| 普及指導員 | 5 | 82 |
| 学生 | 0 | 0 |
| 児童・生徒 | 1 | 22 |
| 海外からの視察者 | 0 | 0 |
| その他 | 2 | 35 |
| 計 | 12 | 202 |

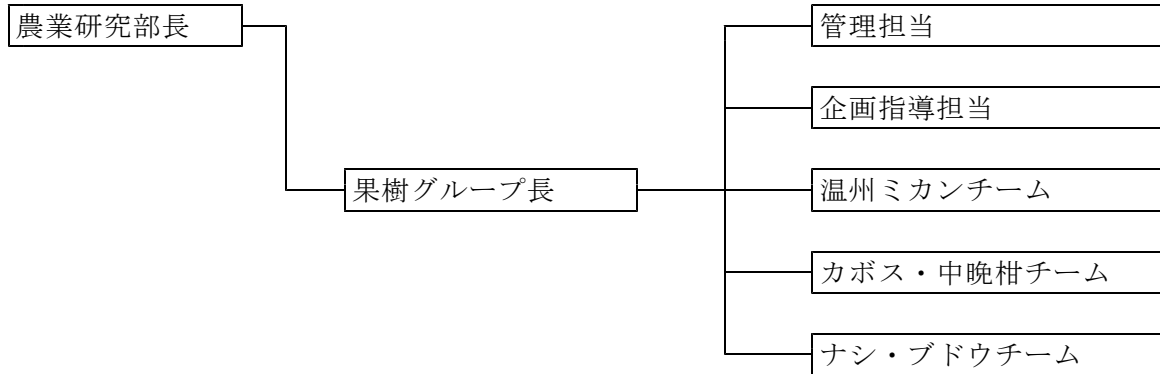
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|------------------------|--|-------------------------------|
| 生産性向上にむけた飼料米の現地生産技術の確立 | 県内各振興局と連携し、新品種を導入した技術の実証・普及を進めるとともに、栽培マニュアルを改訂し生産者への技術定着を図る。 | 飼料米実証圃を県内6カ所に設置し、栽培技術の普及を図った。 |

II-3 果樹グループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組 織 | 職 員 | | 技 師 | 労務技師 | 業務技師 | 事務補佐 | 計 | 備 考 |
|---------------------|-----|-----|-----|------|------|------|----|-----------|
| | 事 務 | 技 術 | | | | | | |
| グ ル ー プ 長 | | 1 | | | | | 1 | |
| 管 理 担 当 | 1 | | | | | | 1 | |
| 企 画 指 導 担 当 | | 3 | | | | | 3 | 広域普及指導員2名 |
| 温 州 ミ カ ン チ ー ム | | 4 | | 2 | | | 6 | |
| カ ボ ス ・ 中 晩 柑 チ ー ム | | 4 | | 1 | | | 5 | |
| ナ シ ・ ブ ド ウ チ ー ム | | 5 | 2 | | 1 | | 8 | |
| 計 | 1 | 17 | 2 | 3 | 1 | | 24 | |

(3) 業務

- ①温州ミカンの優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ②カボス・中晩柑等の育種、優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ③ナシ・ブドウ等の優良系統の選抜、栽培技術に関する試験研究
- ④ハウスミカン、施設中晩柑に関する試験研究
- ⑤カンキツ及び落葉果樹の病害虫に関する試験研究
- ⑥生産者に対する研修及び現地指導

2. 試験研究課題

農業研究部 果樹グループ

| 試験研究課題名 | 担当 | 連携機関 | 研究期間 | 予算区分 |
|--|------------------------|--------------|--------|-------|
| I 大課題 1 中課題 ・研究項目 (1)小課題 | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | |
| ・ハウスミカンの早期成園化及び高生産技術の確立 | | | | |
| (1) 2020年代のハウスミカンを読み取る高収益栽培技術の開発 | 温州ミカンチーム | | 27～29 | 県単 |
| ・ナシの早期成園化及び高生産技術の確立 | | | | |
| (2) ナシの大苗育苗と流線型仕立てによる早期成園化技術の確立 | ナシ・ブドウチーム | | 26～28 | 県単 |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・カンキツ優良品種の選定と栽培技術の確立 | | | | |
| (3) カンキツ系統適応性検定試験 | 温州ミカンチーム カボス・中晩柑チーム | | 28～30 | 県単 |
| ・落葉果樹の優良品種の選定と栽培技術の確立 | | | | |
| (4) 落葉果樹の系統適応性検定試験 | ナシ・ブドウチーム | | 28～30 | 県単 |
| ・カンキツの品種の育成と栽培技術の確立 | | | | |
| (5) 無加温ハウスに適したカンキツの品種選定及び栽培技術の確立 | 温州ミカンチーム | | 28～30 | 県単・国庫 |
| (6) 新食感カンキツ「大分果研4号」のステップアップのための技術確立 | カボス・中晩柑チーム | | 26～28 | 県単 |
| (7) 温暖化に適したカンキツの品種選定及び栽培技術の確立 | 温州ミカンチーム | | 26～30 | 県単 |
| ・ナシ極早生品種の育成と栽培技術の確立 | | | | |
| (8) 「豊里」につづけ！うまくて高収量な大分県オリジナル極早生ナシの開発 | ナシ・ブドウチーム | | 28～30 | 県単 |
| ・特色あるワイン専用品種の育成及び栽培技術の確立 | | | | |
| (9) ブドウ産地再興をかけた特色あるワイン専用品種の開発 | ナシ・ブドウチーム | | 27～29 | 県単 |
| ・落葉果樹の優良品種の選定と栽培技術の確立 | | | | |
| (10) とにかく美味しい！特色ある「おおいたシャインマスカット」生産技術の確立 | ナシ・ブドウチーム | | 26～28 | 県単 |
| 3 マーケットインの商品(もの)づくりを加速するための技術開発 | | | | |
| ・カボスの周年安定出荷のための栽培及び貯蔵方法の確立 | | | | |
| (11) グリーンカボス安定出荷に対応した技術開発 ～産地から店頭まで～ | カボス・中晩柑チーム | | 28～30 | 県単 |
| ・果樹の病害虫防除体系の確立 | | | | |
| (12) 果樹の病害虫防除並びに植物生長調節剤に関する試験 | | | | |
| ①温州ミカン、カボス・中晩柑 | 温州ミカンチーム カボス・中晩柑チーム | | 28～30 | 県単・国庫 |
| ②ナシ・ブドウ | ナシ・ブドウチーム | | 28～30 | 県単 |
| (3) ブドウ産地再興をかけた特色あるワイン専用品種の開発 | ナシ・ブドウチーム | 三和酒類 ・香川大 | 27～29 | 県単 |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・施設柑橘の大規模化を可能にする技術確立 | | | 28該当なし | |
| ・ハウスミカンの省エネ及び高収益栽培技術の確立 | | | | |
| (1) 2020年代のハウスミカンを読み取る高収益栽培技術の確立 | 温州ミカンチーム | | 27～29 | 県単 |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・温暖化に適応可能な新たな果樹品目の探索と栽培技術の確立 | | | | |
| (7) 温暖化に適したカンキツの品種選定及び栽培技術の確立 | 温州ミカンチーム | | 26～30 | 県単 |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・農業情報の提供(生態調査) | 果樹グループ | | 長期 | 県単 |
| ①カンキツの生態調査 | | | | |
| ②落葉果樹の生態調査 | | | | |
| ・優良品種系統の原母樹の確保と優良穂木の管理 | 果樹グループ | | 長期 | 県単 |
| ・地元ゆかりの動植物の保存 | 果樹グループ | | 長期 | 県単 |

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 項数 | 部数 |
|--------------------------------------|---------|-----|------|
| 平成27年度大分県農林水産研究指導センター果樹グループ試験研究年報CD版 | H29.1.6 | 203 | 130枚 |

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

| 執筆者 | 論文名 | 掲載誌名 | 巻(号) | 掲載頁 |
|-------|----------------------------------|--------------------|----------------|-------|
| 矢野 拓 | 定植時の剪定と栽培環境が温州ミカン苗の成長に及ぼす影響 | 果実日本 | 2017-72 4月号 | 22-25 |
| 矢野 拓 | 高収量と省力化との両立が可能なハウスミカン垣根仕立栽培技術 | 日本政策金融公庫 「技術の窓」 | No.2169 | HP |
| 渡邊 久能 | 植物病原菌の薬剤感受性検定マニュアル2016(16) ナシ炭疽病 | 植物防疫 | 2017-71 5月号 | 35-38 |

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|-----------|-----------------------------------|-------|--|
| H28.9.7 | 平成28年度九州沖縄農業研究発表会(果樹部門) | 姫野 悟 | カンキツ新品種「大分果研4号」の高品質化技術 |
| H28.9.8 | 平成28年度九州沖縄農業研究発表会(果樹部門) | 佐藤 洋平 | シャインマスカットの貯蔵及び食感向上対策 |
| H28.9.11 | 平成28年度園芸学会秋季大会 | 矢野 拓 | 新植や改植の合理化を目的としたウンシュウミカン苗の成長解析 |
| H28.11.27 | 平成28年九州支部合同大会(日本農業気象学会・日本生物環境工学会) | 矢野 拓 | 成長解析法を用いた ウンシュウミカン苗成長の定量化と予測 |
| H29.1.31 | 平成28年度九州沖縄農業試験研究推進会議果樹部会(普及成果情報) | 福田 賢二 | ナシ流線型仕立に用いる大苗育苗施設「大苗工場」の設置経費削減と省力化、生育向上 |
| H29.2.2 | 平成28年度常緑・落葉果樹病害虫研究会(虫害分科会) | 檜原 稔 | ミカンバエのモニタリング手法及び防除技術の確立 1 モニタリングトラップの検討 |

(4) 研究成果発表会

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題数 | 参加者数 |
|------------------------------|----------|--------|-------|------|
| 平成28年度第2回農林水産研究指導センター研究状況報告会 | H28.11.7 | 県庁 | 1 | 55 |
| 九州沖縄推進会議(カンキツ成績検討会) | H29.2.1 | 筑後研究拠点 | 13 | 34 |
| 九州沖縄推進会議(落葉果樹成績検討会) | H29.2.1 | 筑後研究拠点 | 8 | 25 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|------------------|-----------------|------|----------------|
| H28.4.25 | 大苗育苗・流線型仕立栽培研修 | 日田・山国 | 10 | 地域農業振興課 |
| H28.5.9 | 防除研修会 | 臼杵市、佐伯市 | 40 | JAおおいた県南柑橘選果場 |
| H28.5.10 | カボス講座 | JAおおいた竹田事業部 | 30 | 豊肥振興局 |
| H28.5.11 | 大苗育苗・流線型仕立栽培研修 | 日田・山国 | 10 | 地域農業振興課 |
| H28.5.21 | 竹田市飛田川カボス貯蔵研修会 | 竹田市飛田川法人貯蔵庫 | 20 | 豊肥振興局 |
| H28.6.11 | 平成28年度第1回みかん学校 | 南部振興局 | 40 | 佐伯地域柑橘研究会 |
| H28.6.21 | 革新的技術等に関する研修会 | 杵築柑橘選果場 | 30 | 大分県園芸活性化協議会 |
| H28.6.23 | 大苗育苗・流線型仕立栽培研修 | 日田・山国 | 10 | 地域農業振興課 |
| H28.6.24 | 津久見市認定農家総会 | 津久見市市民会館 | 50 | 津久見市 |
| H28.6.27 | 大分市ミカンバエ防除対策研修会 | 大分市滝尾選果場 | 30 | 大分市、中部振興局 |
| H28.6.30 | 臼杵市ミカンバエ防除対策研修会 | 県南柑橘選果場 | 20 | 臼杵市、中部振興局 |
| H28.7.1 | 津久見市柑橘組合長会議 | 津久見市民ふれあい交流センター | 20 | 津久見市 |
| H28.7.4 | 大苗育苗・流線型仕立栽培研修 | 日田・山国 | 10 | 地域農業振興課 |
| H28.8.4 | 大苗育苗・流線型仕立栽培研修 | 日田・山国 | 10 | 地域農業振興課 |
| H28.8.9 | カボス講座 | JAおおいた竹田事業部 | 20 | 豊肥振興局 |
| H28.8.24 | 大分県園芸協研修会 | 大分農業文化公園 | 50 | 大分県園芸活性化協議会 |
| H28.9.7 | 中晩柑研修会 | 県南柑橘選果場 | 30 | 園芸活性化協議会果樹部会 |
| H28.9.10 | 平成28年度第4回みかん学校 | 南部振興局 | 40 | 佐伯地域柑橘研究会 |
| H28.9.15 | 視察研修会(徳島県) | カボス・中晩柑チーム、竹田市 | 4 | 豊肥振興局 |
| H28.10.7 | ぶどう品種検討会 | ナシ・ブドウチーム | 10 | 大分県園芸活性化協議会 |
| H28.10.8 | 平成28年度第5回みかん学校 | 南部振興局 | 40 | 佐伯地域柑橘研究会 |
| H28.10.18 | ハウスミカン研修会 | 果樹グループ(国東) | 30 | JAおおいた柑橘研究会青年部 |
| H28.11.30 | なし冬期研修会(安岐橋上) | 国東市 | 20 | 安岐橋上なし生産組合 |
| H28.12.14 | 新人指導員研修(なし剪定) | 日田 | 7 | 大分県園芸活性化協議会 |
| H28.12.14 | 視察研修会 | カボス・中晩柑チーム | 10 | 佐志生みかん塾 |
| H28.12.15 | シャインマスカット栽培研修会 | 農協安心院支店 | 50 | 農協・安心院ブドウ部会 |
| H28.12.16 | なし剪定研修 | 日田 | 25 | 大分県園芸活性化協議会 |
| H28.12.20 | ナシ流線型仕立研修会 | ナシ・ブドウチーム | 50 | 園芸振興班・ナシ研究会 |
| H28.12.26 | 果樹防除暦検討会 | 大分市 | 40 | 園芸活性化協議会果樹部会 |
| H29.1.14 | 平成28年度第7回みかん学校 | 南部振興局 | 50 | 佐伯地域柑橘研究会 |
| H29.1.16 | JAおおいたカボスエリア別研修会 | 臼杵組合員ホール | 50 | JAおおいた県南柑橘選果場 |
| H29.1.17 | 農業公園園芸講座(接ぎ木) | 農業文化公園 | 30 | 大分県農業文化公園 |
| H29.1.20 | 視察研修会 | カボス・中晩柑チーム | 10 | 柑橘愛好会佐伯支部 |
| H29.1.30 | 梨流線型仕立研修会 | 日田市 | 30 | 大分県園芸活性化協議会 |
| H29.3.11 | 平成28年度第9回みかん学校 | 南部振興局 | 50 | 佐伯地域柑橘研究会 |
| H29.3.14 | ぶどう若手生産者研修会 | 大分 | 30 | 大分県園芸活性化協議会 |
| H29.3.15 | 日田梨大学 | 日田市 | 85 | JAおおいた日田なし部会 |

(2) 受入研修

① 長期研修者受入

なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 |
|--------------|-----|------|
| 生産者 | 102 | 377 |
| 団体等職員 | 27 | 82 |
| 改良普及指導員(公務員) | 48 | 125 |
| 学生 | 3 | 65 |
| 海外研修者 | 2 | 38 |
| その他 | 29 | 80 |
| 計 | 211 | 767 |

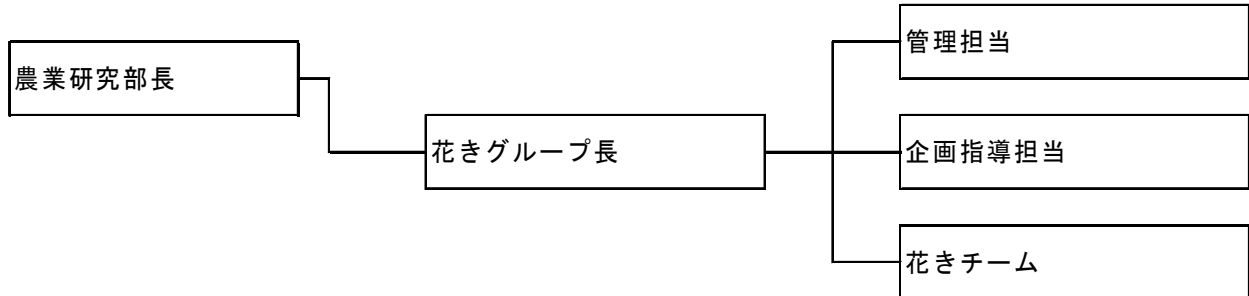
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|-------------------------------|--|---|
| 2020年代のハウスミカンをリードする高収益栽培技術の開発 | ハウスミカンの改植後の未収益期間の短縮と単収向上を図るため、垣根仕立ての栽培技術の普及を図る | 平成27年12月に加温を開始した杵築市の実証圃において、初年度目標収量4t/10aを達成できた。津久見市で、新たに1戸が垣根仕立てを導入予定。 |
| ナシの大苗育苗と流線型仕立による早期成園化技術の確立 | ナシの改植後の未収益期間の短縮と反収向上を図るため、流線型仕立の栽培技術の普及を図る | 5戸(約30a)が流線型仕立を導入・拡大し、大苗育苗施設は新たに3箇所(日田市2、由布市1)で設置された。 |

II-4 花きグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組織 | 職種 | 職員 | | 技師 | 労務 技師 | 業務 技師 | 事務 補佐 | 計 | 備考 |
|--------|--------|----|----|----|----------|----------|----------|----|----|
| | | 事務 | 技術 | | | | | | |
| グループ長 | 管理担当 | 1 | 1 | | | | | 1 | |
| 企画指導担当 | 企画指導担当 | | 1 | | | | | 1 | |
| 花きチーム | 花きチーム | | 6 | 1 | | 2 | | 9 | |
| 計 | | 1 | 8 | 1 | 0 | 2 | 0 | 12 | |

(3) 業務

- ①花きの栽培および病害虫に関する研究
- ②花きの研究成果の現地普及
- ③花き優良種苗の供給
- ④花き指導者、生産者に対する研修および現地指導

2. 試験研究課題

農業研究部 花きグループ

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|---|-----------|-------------|----------|----------|
| I 大課題、 1 中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | |
| ・ 新たな品目での統合環境制御による栽培技術開発 1) キクの環境制御技術による品質向上と安定生産 | 花きチーム | | H28～30 | 県単 |
| ・ 高収益栽培技術の開発 | | | H28該当なし | |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・ 地域特性に即した品種選定と栽培技術確立 1) ホオズキの需要に即した優良系統選抜と効率的な種苗生産技術の確立 | 花きチーム | | H26～28 | 県単 |
| ・ オリジナル品目の開発 1) 特色のあるオリジナルトルコギキョウの育成と利用拡大 | 花きチーム | | H26～28 | 県単 |
| ・ 新規、高付加価値品目や新たな品種の開発 | | | H28該当なし | |
| 3 マーケットインの商品（もの）づくりを加速のための技術開発 | | | | |
| ・ 新規、高付加価値品目や新たな品種の開発 | | | H28該当なし | |
| ・ 鮮度、品質保持技術の開発 | | | H28該当なし | |
| ・ 難防除病害虫防除技術 1) 数種弱毒ウイルスを用いたホオズキのウイルス病総合防除技術の構築 | 花きチーム | 農研機構 宮崎県 | H27～29 | 国庫 県単 |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・ 統合環境制御技術の開発とマニュアル化 1) スイートピーの安定生産技術の確立とオリジナル品種の育成 | 花きチーム | | H28～30 | 県単 |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・ 杉皮バーク等地域資源の農業利用技術開発 1) 地域資源「大麦焼酎粕」活用技術の確立 | 花きチーム | | H27～29 | 県単 |
| ・ 省エネルギー栽培技術、高生産システム技術開発 | | | H28該当なし | |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・ 戦略品目や推進品目の種苗管理供給及び系統選抜 1) 優良種苗供給 | 花きチーム | | 長期 | 県単 |
| ・ 地域固有種の収集、保存 | | | H28該当なし | |
| ・ 薬草の特性把握、品種保存 | | | H28該当なし | |

3. 研究成果等の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 頁数 | 部数 |
|------------------------|---------|-----|----|
| 平成27年度花きグループ試験成績書（CD版） | 29.3.30 | 112 | 60 |

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

該当なし

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|--------|------------|--------------------|---|
| 28.9.7 | 園芸学会九州支部 | 甲斐克明・大西健二 | バラの複合環境制御技術の検討 ー冬季の高夜温・低夜温管理における炭酸ガス施用およびミスト噴霧の効果ー |
| 28.9.7 | 園芸学会九州支部 | 伊東久徳・佐保学 | 大麦焼酎粕の施用がアルストロメリアの収量や品質に及ぼす影響 |
| 29.2.2 | 九州病害虫研究会 | 米田恵美・富高保弘・兒玉泰・石松敏樹 | 大分県のホオズキにおけるウイルス病の発生実態 |
| 29.2.2 | 九州病害虫研究会 | 富高保弘・米田恵美 | ホオズキに感染するトバモウイルス2種を検出するためのRIPA法の開発 |

(4) 研究成果発表会

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題数 | 参加者数 |
|---------------------------------|------------|--------|-------|------|
| 九州沖縄農業試験研究推進会議野菜花き推進部会花き現地検討会 | 28.10.28 | 花きグループ | 2 | 21 |
| 九州沖縄農業試験研究推進会議野菜花き推進部会花き成績設計検討会 | 29.1.26~27 | 久留米市 | 3 | 40 |
| 九州沖縄農業試験研究推進会議病害虫推進部会成績設計検討会 | 29.1.26 | 熊本市 | 1 | 42 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会の開催

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|----------|----------------------|--------|------|--------------|
| 28.6.29 | 少量培地栽培(ハボタン)栽培研修会 | 花きグループ | 35 | 園芸振興室 |
| 28.7.14 | ホオズキ栽培研修会 | 杵築市 | 35 | 園芸振興室 |
| 28.8.22 | ホオズキ播種研修会 | 花きグループ | 18 | 園芸振興室 |
| 28.9.13 | キク現地研修会 | 杵築市 | 16 | 園芸振興室 |
| 28.11.2 | リシアンサス(トルコギキョウ)品種検討会 | 花きグループ | 50 | 主催 |
| 28.11.22 | 花き園芸趣味の講座 | 花きグループ | 41 | 主催 |
| 28.12.7 | スイートピー現地研修会 | 豊後大野市 | 28 | 園芸振興室 |
| 28.12.9 | 別府市花き園芸組合病害虫研修会 | 花きグループ | 16 | 東部振興局 |
| 28.12.13 | 花き園芸趣味の講座 | 花きグループ | 26 | 主催 |
| 28.12.14 | キク現地研修会 | 豊後大野市 | 14 | 園芸振興室 |
| 29.2.7 | ヤマジノギク品種検討会 | 杵築市 | 22 | J A おおいた |
| 29.2.27 | 花き後継者環境制御技術研修会 | 花きグループ | 5 | 南部振興局 |
| 29.3.2 | 環境制御技術研究普及検討会 | 花きグループ | 30 | 地域農業振興課 |
| 29.3.8 | キク現地研修会 | 佐伯市 | 17 | 園芸振興室 |
| 29.3.8 | 花き園芸趣味の講座(特別講座) | 別府市 | 11 | 主催 |
| 29.3.21 | 花き園芸趣味の講座 | 花きグループ | 36 | 主催 |
| 29.3.24 | 少量培地研修会 | 花きグループ | 7 | 東部振興局 |
| 29.3.24 | チェリーピー研修会 | 花きグループ | 7 | 園芸振興室 |

(2) 受入研修

① 長期研修者受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 |
|----------|-------|-------|
| 生産者 | 8 | 179 |
| 団体等職員 | 4 | 133 |
| 普及指導員 | 5 | 32 |
| 学生 | 1 | 13 |
| 児童・生徒 | 2 | 108 |
| 海外からの視察者 | 0 | 0 |
| その他 | 9 | 215 |
| 一般来場者 | 1,039 | 3,376 |
| 計 | 1,068 | 4,056 |

※大学

※小中高校

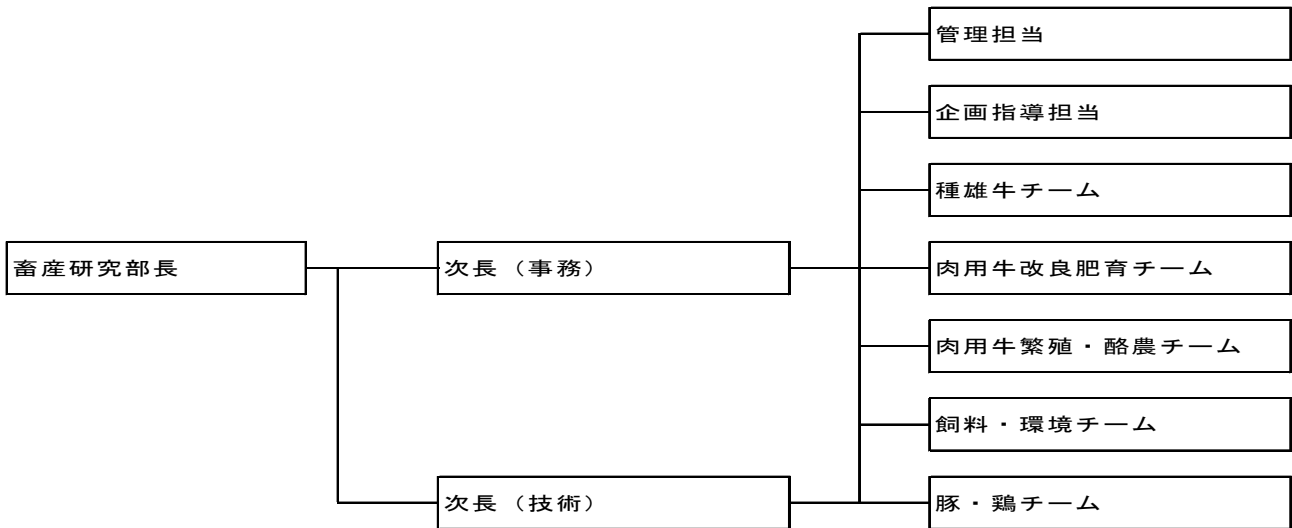
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|---------------------------|-------------------------------|---|
| 特色のあるオリジナルトルコギキョウの育成と利用拡大 | 鉢物トルコギキョウ「チェリービー」の普及拡大を図る。 | 普及との合同巡回を通じてチェリービーの栽培マニュアルの普及を図り、出荷率の向上につなげた。 |
| 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | ヤマジノギクの優良系統について、現地試験を行い評価を得る。 | 現地試験に供した8系統のうち特に評価が高かった3系統を販売系統とした。 |

II-5 畜産研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組織 | 職種 | 職員 | | 技師 | 労務技師 | 業務技師 | 事務補佐 | 計 | 備考 |
|----|-------------|----|----|----|------|------|------|----|-----------|
| | | 事務 | 技術 | | | | | | |
| 部 | 部長 | | 1 | | | | | 1 | |
| 次 | 次長 | 1 | 1 | | | | | 2 | |
| 管 | 管理担当 | 4 | | | | | | 4 | |
| 企 | 企画指導担当 | | 5 | | | | | 5 | 広域普及指導員3名 |
| 種 | 種雄牛チーム | | 2 | 2 | 2 | | | 6 | |
| 肉 | 肉用牛改良肥育チーム | | 3 | 2 | 2 | | | 7 | |
| 肉 | 肉用牛繁殖・肥育チーム | | 5 | 5 | 2 | | | 12 | |
| 飼 | 飼料・環境チーム | | 4 | 4 | | | | 8 | |
| 豚 | 豚・鶏チーム | | 6 | 2 | 3 | 1 | | 12 | |
| 計 | | 5 | 27 | 15 | 9 | 1 | 0 | 57 | |

(3) 業務

- ① 肉用牛の改良増殖、種雄牛造成並びに精液供給
- ② 肉用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ③ 乳用牛の飼養技術及び繁殖技術
- ④ 牧草及び飼料作物の系統選抜、栽培管理・貯蔵技術、自給飼料成分分析並びに畜産環境対策
- ⑤ 豚の育種、飼養管理技術並びに精液供給
- ⑥ 家禽の育種並びに飼養管理技術

2. 試験研究課題

| 畜産研究部 | | 担当 | 連携 | 研究 | 予算 |
|---|--|----------|-------------------|---------|----|
| 試験研究課題名 | | チーム | 機関 | 期間 | 区分 |
| I 大課題、1中課題・研究項目 ※「研究項目」以下の区分:1)、(1)、① | | | | | |
| I 構造改革を加速し、もつかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | | |
| ・ 肉用牛・酪農の生産性向上と粗飼料基盤確立のための技術開発 | | | | | |
| 1) コントラクターを軸とした米粉サイレージの広域流通体制の構築と利用技術の開発 | | 飼料・環境 | 農業公社やまくに | H28～30 | 県単 |
| 2) 和牛肥育期間の大幅な短縮技術の開発 | | 肉用牛繁殖・酪農 | 大分家保 | H28～32 | 国庫 |
| ・ ICTを活用したワークライフバランスを実現する技術の開発 | | | | | |
| 1) ICTを活用した周年親子放牧による肉用子牛生産の省力化・低コスト化技術の開発 | | 飼料・環境 | 農研機構・関係各県 | H28～32 | 国庫 |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | | |
| ・ 「おおいた豊後牛」銘柄確立のための優秀種雄牛の造成 | | | | | |
| 1) イネWCS、飼料用米を活用した「豊後・米仕上牛」のブランド力強化と生産性向上 | | 肉用牛繁殖・酪農 | 大分家保 | H27～29 | 県単 |
| ・ 生産者の所得向上を目指した「スーパー母豚」自家農場作出システムの構築 | | | | | |
| 1) 食肉脂肪測定装置を用いた豚肉脂肪測定システムの開発と豚肉脂肪中のオレイン酸含有率向上技術の確立 | | 豚・鶏 | | H28～30 | 県単 |
| ・ 優秀種豚造成のための豚凍結精液等の技術の開発 | | | | H28該当なし | |
| 3 マーケットインの商品(もの)づくりを加速のための技術開発 | | | | | |
| ・ 高品質で安全性の高い牛肉生産を支える技術開発による美味しい「おおいた豊後牛」肥育技術の確立 | | | | H28該当なし | |
| ・ 「Theおおいたブランド」農産物を飼料に活用した「おおいた冠地どり」の銘柄強化 | | | | | |
| 1) 規格外乾しいたけを利用した高品質な「冠地どり」の作出 | | 豚・鶏 | きのこグループ、県産農協 | H26～28 | 県単 |
| ・ 高付加価値地鶏の作出 | | | | | |
| 1) 「おおいた冠地どりシャボン」の開発～精巢除去による長期肥育技術の研究～ | | 豚・鶏 | | H27～29 | 県単 |
| 2) 「おおいた冠地どり」の安定生産技術の確立～精液の凍結保存技術の研究～ | | 豚・鶏 | | H27～29 | 県単 |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | | |
| ・ 牛の受胎率向上技術の開発 | | | | | |
| 1) 液状精液を活用した牛の受胎率向上技術の開発～牛の液状精液用精液希釈液の開発～ | | 種雄牛 | | H28～30 | 県単 |
| ・ 最新繁殖技術を支える受精卵移植技術の開発 | | | | | |
| 1) 乳用種育成牛由来の雌受精卵による効率的後継牛確保対策 | | 肉用牛繁殖・酪農 | | H28～30 | 県単 |
| 2) 酪農生産基盤強化に向けた黒毛和種体外受精卵生産技術の確立および乳牛の受胎環境改善方法の検討 | | 肉用牛繁殖・酪農 | 大分県酪農協 | H27～29 | 県単 |
| 3) 生産者の所得向上を目指した「スーパー母豚」自家農場作出システムの構築 | | 豚・鶏 | | H26～28 | 県単 |
| ・ 地鶏の遺伝子保存による安定生産及び安定供給 | | | | H28該当なし | |
| ・ 県産粗飼料の品質の強化 | | | | H28該当なし | |
| ・ 堆肥を活用した自給飼料基盤拡大のための技術開発 | | | | H28該当なし | |
| ・ 新草種等の栽培・貯蔵技術の開発 | | | | H28該当なし | |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | | |
| ・ 低コスト経営のための未利用資源を活用した飼料開発 | | | | | |
| 1) 強酸性化草地の生産性回復技術の確立 | | 飼料・環境 | 九州農業研究センター | H27～29 | 県単 |
| 2) 乳用牛に向けた新TMRの開発及び給与試験(県産自給飼料及び製造粕類を取り入れた新しい発酵TMRの開発) | | 肉用牛繁殖・酪農 | 大分県酪農協 | H27～29 | 県単 |
| ・ 未利用資源の活用による豚ブランド力の強化 | | | | | |
| 1) 地域農産物「甘太くん」の規格外品を給与した地域銘柄豚の作出技術の開発 | | 豚・鶏 | | H27～28 | 県単 |
| ・ 家畜利用の農村環境保全 | | | | | |
| 1) 乳牛の体温動態に応じた暑熱対策システムの開発(家畜体温監視システムを用いた効率的な牛冷却システムの開発) | | 肉用牛繁殖・酪農 | (株)リモート、大分県産科センター | H27～28 | 県単 |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | | |
| ・ 優秀種雄牛の造成 | | | | | |
| 1) 種雄牛検定 | | | | | |
| (1) 直接法 | | 肉用牛改良肥育 | | 長期 | 県単 |
| (2) 現場後代法 | | 肉用牛改良肥育 | | 長期 | 県単 |
| 2) 大分県種雄牛の産肉性に関する遺伝子領域解析及び効果検証 | | 種雄牛 | | 長期 | 県単 |
| ・ 牧草・飼料作物の優良品種・系統の選定 | | | | | |
| 1) 牧草類・飼料作物の奨励品種選定試験 | | | | | |
| (1) とうもろこし | | 飼料・環境 | 九州農業研究センター、九州各県 | 長期 | 県単 |
| (2) イタリアンライグラス | | 飼料・環境 | 九州農業研究センター、九州各県 | 長期 | 県単 |
| (3) ソルガム | | 飼料・環境 | 九州農業研究センター、九州各県 | 長期 | 県単 |
| (4) 中九州中山間地における耐病性ソルガム系統の評価 | | 飼料・環境 | 九州農業研究センター、九州各県 | H26～30 | 国庫 |
| (5) 中九州中山間地におけるいもち病抵抗性イタリアンライグラス系統の評価 | | 飼料・環境 | 九州農業研究センター、九州各県 | H26～30 | 国庫 |
| ・ 高品質豚生産のための種豚改良 L・W・Dの系統維持・増殖 | | | | | |
| 1) 原種豚の改良維持及び増殖 | | | | | |
| (1) ランドレース種の系統維持・増殖 | | 豚・鶏 | | 長期 | 県単 |
| (2) 大ヨークシャー種の改良増殖 | | 豚・鶏 | | 長期 | 県単 |
| (3) デュロック種の能力維持 | | 豚・鶏 | | 長期 | 県単 |
| ・ 原種禽の系統維持及び増殖 | | | | | |
| 1) 原種禽の系統維持及び増殖 | | | | | |
| (1) 「豊のしゃも」原種鶏 | | 豚・鶏 | 熊本農研、宮崎畜試 | 長期 | 県単 |
| (2) 「おおいた冠地どり」原種鶏 | | 豚・鶏 | 熊本農研、宮崎畜試 | 長期 | 県単 |
| (3) 「おおいた烏骨鶏」原種鶏 | | 豚・鶏 | 熊本農研、宮崎畜試 | 長期 | 県単 |

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 頁数 | 部数 |
|--------------------------------|-------|----|-------|
| 2016大分県黒毛和種 種雄牛 | H28.5 | 26 | 1,000 |
| 大分県種雄牛名簿・肉用牛現場後代検定成績 | H28.6 | 1 | 1,500 |
| Livestock Research Division 要覧 | H29.3 | 8 | 1,000 |

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

該当なし

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|-----------|-----------------------|-------|--|
| H28.10.16 | 日本産業動物獣医学会（九州地区） | 倉原 貴美 | 乳牛の雌選別精液を用いた人工授精の受胎率向上に関する研究 |
| H28.10.28 | 九州地区食肉衛生検査協議会大分大会 | 藤田 達男 | ウシMHC遺伝子マーカーを指標とした牛白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成 |
| H28.12.2 | 大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会 | 阿部菜奈子 | ラップサイレージ品質評価法の確立 |
| | | 後藤 雅昭 | ウシ凍結精液による人工授精技術の修正と高度化 |
| | | 久々宮萌果 | 酪農生産基盤強化に向けた黒毛和種体外受精卵生産技術の確立 |
| H28.12.14 | 理研シンポジウム | 藤田 達男 | ウシMHC遺伝子マーカーを指標とした牛白血病発症抵抗性遺伝子保有黒毛和種種雄牛の造成 |
| H29.2.24 | はやしセミナー | 藤田 達男 | 黒毛和種で実践！メンデルの法則 |
| H29.3.24 | 理研セミナー | 藤田 達男 | ゲノム情報を活用した大分県の黒毛和種の育種戦略 |

(4) 研究成果発表会等

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題数 | 参加者数 |
|----------------------------------|----------|----------------|-------|------|
| 平成28年度第2回 農林水産研究指導センター研究状況報告会 | H28.11.7 | 県庁舎本館 91会議室 | 1 | 55 |
| 大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会 | H28.12.2 | 大分県庁 正庁ホール | 3 | 100 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催(1/2)

ア 畜産経営者・技術者研修

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|---------|-------------|------|------|--------------|
| H28.6.2 | 肉用牛改良研修(Ⅰ) | 部内 | 100 | |
| H29.2.7 | 肉用牛改良研修(Ⅱ) | 部内 | 100 | |

イ 受託研修

| | | | | |
|----------|-----------------------|----|----|-------|
| H28.5.31 | 獣医師職新任者技術(採血)研修(家畜防疫) | 部内 | 10 | 畜産振興課 |
| H28.6.9 | 獣医師職新任者繁殖技術研修(畜産振興) | 部内 | 4 | 畜産振興課 |
| H28.6.16 | 獣医師職新任者繁殖技術研修(畜産振興) | 部内 | 4 | 畜産振興課 |
| H28.6.27 | 家畜受精卵移植講習会 | 部内 | 4 | 畜産振興課 |
| H28.8.1 | 獣医系インターンシップ研修 | 部内 | 2 | 畜産振興課 |
| H28.8.4 | 獣医系インターンシップ研修 | 部内 | 1 | 畜産振興課 |
| H28.8.5 | 獣医系インターンシップ研修 | 部内 | 1 | 畜産振興課 |
| H28.8.22 | 獣医系インターンシップ研修 | 部内 | 3 | 畜産振興課 |
| H28.8.29 | 獣医系インターンシップ研修 | 部内 | 3 | 畜産振興課 |
| H28.9.5 | 獣医系インターンシップ研修 | 部内 | 3 | 畜産振興課 |
| H28.9.6 | 獣医系インターンシップ研修 | 部内 | 1 | 畜産振興課 |
| H28.9.28 | インターンシップ研修 | 部内 | 2 | 畜産振興課 |
| H28.11.7 | 家畜人工授精講習会 | 部内 | 11 | 畜産振興課 |

ウ 視察研修

| | | | | |
|-----------|-------------------------|----|----|-------|
| H28.5.13 | 清川町和牛振興会視察研修会 | 部内 | 15 | 生産者 |
| H28.7.8 | 朝地町畜産女性部視察研修会 | 部内 | 15 | 生産者 |
| H28.7.28 | 平飼いシステム鶏舎の先進地視察 | 部内 | 1 | 高知県 |
| H28.8.3 | 北部地域畜産若手の会視察研修 | 部内 | 6 | 生産者 |
| H28.8.9 | J A延岡和牛生産組合視察 | 部内 | 22 | 生産者等 |
| H28.8.18 | 向陽中学生視察研修(1名+保護者) | 部内 | 2 | 向陽中学校 |
| H28.8.30 | 肥育女性グループのぞみ会視察研修 | 部内 | 10 | 生産者等 |
| H28.9.8 | 九州大学(農学部)視察研修 | 部内 | 30 | 九州大学 |
| H28.9.8 | 北部交雑種肥育農家視察 | 部内 | 10 | 生産者等 |
| H28.10.7 | 九州大学(農学部)視察研修 | 部内 | 30 | 九州大学 |
| H28.10.27 | 九州大学(農学部)視察研修 | 部内 | 30 | 九州大学 |
| H28.11.16 | 朝地町梨原十頭会視察研修 | 部内 | 15 | 生産者等 |
| H28.11.18 | 久住小学校5年生視察研修 | 部内 | 16 | 久住小学生 |
| H28.11.25 | 京都大学 視察&研修 | 部内 | 3 | 京都大学 |
| H28.11.25 | 九州大学(農学部)視察研修 | 部内 | 30 | 九州大学 |
| H29.1.20 | 竹田市和牛振興会久住支部視察研修 | 部内 | 30 | 生産者等 |
| H29.3.8 | 東部肉用牛育種改良組合研修 | 部内 | 20 | 生産者等 |
| H29.3.14 | 安心院町肉用牛部会視察 | 部内 | 20 | 生産者等 |
| H29.3.28 | 玖珠九重農協女性部視察研修 | 部内 | 30 | 生産者等 |
| H29.3.29 | 種雄牛造成方針及び種雄牛管理手技等に関する研修 | 部内 | 3 | 長崎県 |

エ 講師派遣(その1)

| | | | | |
|----------|-------------------------|-------|----|--|
| H28.4.4 | 竹田市精液譲渡及び家畜人工授精台帳検査 | 竹田市 | 30 | |
| H28.4.7 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.4.11 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.4.18 | 豊肥、南部地域精液譲渡及び家畜人工授精台帳検査 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.5.6 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.5.10 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.5.12 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.5.13 | 中央地域精液譲渡 | 中央 | 10 | |
| H28.5.19 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.6.2 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.6.7 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.6.9 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.6.14 | 中央地域精液譲渡 | 中央 | 10 | |
| H28.6.17 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.7.4 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.7.7 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.7.12 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.7.13 | 中央地域精液譲渡 | 中央 | 10 | |
| H28.7.15 | 竹田市畜産共進会(直入) | 豊肥 | 50 | |
| H28.7.19 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.7.22 | 竹田市畜産共進会(竹田) | 豊肥 | 50 | |
| H28.7.25 | 杵築市畜産品評会 枝肉の部 | 杵築市 | | |
| H28.7.28 | 玖珠・九重畜産品評会 | 玖珠 | 50 | |
| H28.8.2 | 竹田市畜産共進会(久住) | 豊肥 | 50 | |
| H28.8.2 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.8.2 | 豊後大野市畜産共進会(朝地) | 豊肥 | 30 | |
| H28.8.5 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.8.8 | 杵築市畜産共進会巡回 | 杵築市 | | |

(1) 講習会、研修会等の開催(2/2)

エ 講師派遣(その2)

| | | | | |
|-----------|--------------------|-------|-----|--|
| H28.8.9 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.8.18 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.9.2 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.9.6 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.9.8 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.9.9 | 中央地域精液譲渡 | 中央 | 10 | |
| H28.9.16 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.9.23 | 佐伯地区改良研修会 | 南部 | 10 | |
| H28.10.1 | 県共(肉畜の部) | 県内 | 100 | |
| H28.10.4 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.10.7 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.10.12 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.10.15 | 県共(種畜の部) | 県内 | 150 | |
| H28.10.18 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.10.26 | 県共(肉畜の部) | 県内 | 100 | |
| H28.10.28 | 九州食肉衛生検査所協議会 | 県内、県外 | 100 | |
| H28.11.2 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.11.8 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.11.10 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.11.14 | 中央地域精液譲渡 | 中央 | 10 | |
| H28.11.17 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.11.17 | 竹田直入地区家畜人工授精師協会研修会 | 竹田市 | 30 | |
| H28.12.2 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H28.12.6 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H28.12.9 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H28.12.14 | 牛白血病シンポジウム(理研主催) | 県内、県外 | 100 | |
| H28.12.16 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H28.12.22 | 大分市サイレンジコンクール | 大分市 | 30 | |
| H29.1.6 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H29.1.12 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H29.1.13 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H29.1.16 | 中央地域精液譲渡 | 中央 | 10 | |
| H29.1.20 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H29.2.1 | 庄内町畜産振興同志会研修会 | 庄内町 | 40 | |
| H29.2.3 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H29.2.7 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H29.2.9 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H29.2.16 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H29.3.3 | 竹田市精液譲渡 | 竹田市 | 30 | |
| H29.3.6 | 直入地域畜産座談会 | 直入町 | 30 | |
| H29.3.7 | 西部地域精液譲渡 | 西部 | 30 | |
| H29.3.7 | 久住地域畜産座談会 | 久住町 | 30 | |
| H29.3.8 | 竹田地域畜産座談会 | 竹田市 | 30 | |
| H29.3.9 | 北部・東部地域精液譲渡 | 北部・東部 | 20 | |
| H29.3.10 | 中央地域精液譲渡 | 中央 | 10 | |
| H29.3.16 | 豊肥、南部地域精液譲渡 | 豊肥、南部 | 45 | |
| H29.3.27 | 久住町和牛女性部通常総会 | 久住町 | 30 | |

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 | |
|----------|----|------|-------|
| 生産者 | 15 | 304 | |
| 団体等職員 | 2 | 80 | |
| 普及指導員 | 2 | 20 | |
| 学生 | 14 | 143 | ※大学 |
| 児童・生徒 | 2 | 18 | ※小中高校 |
| 海外からの視察者 | 0 | 0 | |
| その他 | 5 | 22 | |
| 計 | 40 | 587 | |

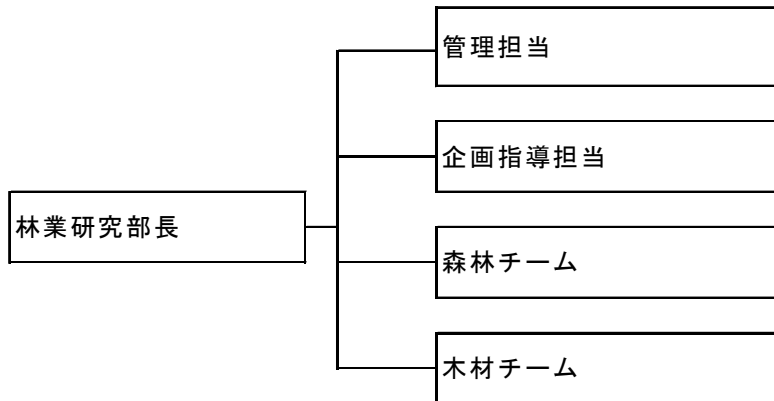
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|---------------------------------------|---|--|
| 産肉成績歴代1位、但馬系種雄牛「安森照」の凍結精液供給による優良子牛の生産 | 県内で飼養されている黒毛和種繁殖雌牛は「但馬系」種雄牛産子が少ない。「安森照」は県内の多くの繁殖雌牛に交配が可能であるため、凍結精液の供給を図る。 | 2,850本の凍結精液を譲渡。当該牛の後輩指導について家畜市場・研修会等において実施した。産子検査は「安森照」産子の市場上場がまだないため、農家巡回で実施した。 |
| 飼料用米給与による高たんぱく含有牛肉生産技術の確立 | 飼料用米を給与した牛肉生産の増大を図る。 | 農場に飼料用米給与試験の研究成果を説明するとともに、給与実証を行っている農場の調査及び指導を行った。飼料用米給与の出荷農場は6カ所となった。 |
| 乳用牛に向けた新TMRの開発及び給与試験 | 飼料イネ・飼料用米等を活用したTMR（ライスパワー）の普及を図る。 | 農場の給与飼料の調査を行うとともに、ライスパワーの説明を実施。ライスパワー利用農場は当初6ヶ所から9ヶ所へ増加した。 |
| レンタカウ導入による耕作放棄地解消現地支援 | 耕作放棄地の解消及び「おおいた型放牧」の普及を図る。 | 中津市及び佐伯市の計2ヶ所で放牧実施。うち中津市は独自に牛を導入し増頭への意欲も見られた。 |
| 「おおいた冠地どり」の銘柄確立と出荷羽数の拡大 | 飼養管理技術を確立して商品の均一化を図り、また県産飼料米の給与により特色ある冠地どり肉を生産し、銘柄確立と出荷羽数の拡大を図る。 | 今年度は7戸の巡回指導を実施し、問題点の把握、関係機関との連携や飼養管理指導を実施した。 飼養管理講習会を2回開催し、飼料米、カボス、乾しいたけ給与等の推進を行った。（畜産研究部H29年3月末譲渡実績：54,140羽、種卵78,480個） |

II-6 林業研究部

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組織 | 職種 | 職員 | | 技師 | 労務技師 | 業務技師 | 事務補佐 | 計 | 備考 |
|----|----|----|-------|----|------|------|------|-------|---------------|
| | | 事務 | 技術 | | | | | | |
| 部管 | 理担 | 3 | 1 | | | | | 1 | |
| 企 | 画指 | | 3(1) | | | | | 3(1) | (兼) 広域普及指導員1名 |
| 森 | 林チ | | 5 | 1 | | 1 | | 7 | |
| 木 | 材チ | | 5(1) | | | | | 5(1) | (兼) デザイン担当1名 |
| | 計 | 3 | 14(2) | 1 | 0 | 1 | 0 | 19(2) | |

(3) 業務

- ① 育種・育林技術の開発に関する試験研究
- ② 環境を守る森林整備に関する試験研究
- ③ 県産材の需要拡大に関する試験研究

2. 試験研究課題

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|--|-----------|--------------|----------|----------------|
| I 大課題、 1中課題 ・研究項目 ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | |
| ・ ICT技術を活用した高生産システムの開発 | | | | |
| ・ 非住宅や高層建築の木造・木質化の推進を図る新たな木質材料の開発 | | | | |
| 1) 県産材を用いた直交集成板（CLT）の開発に関する研究 | 木材チーム | 大分大学 | H27～29 | 県単 |
| ・ CLT等大型木造建築物への接合技術※（GIR、LSB等）の開発 | | | | H28該当なし |
| ・ スギ・ヒノキ材の不燃技術の開発 | | | | H28該当なし |
| ・ セルロースナノファイバー※等を活用した新素材の開発 | | | | H28該当なし |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・ 造林樹種における優良品種の選抜 | | | | |
| 1) スギ奨励品種さし木苗の増産に関する研究 | 森林チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| ・ 低コスト育林技術の開発・実証 | | | | |
| 1) 省力造林用コンテナ苗の育苗技術の開発 | 森林チーム | 森総研 九州大学外 | H26～28 | 県単・委託 (農水省) |
| ・ ブランド化を目指したオール県産材家具、工芸品の開発 | | | | |
| 1) 家具利用に向けた県産スギ材の曲げ加工に関する研究 | 木材チーム | なし | H27～28 | 県単 |
| ・ 遺伝子工学を利用した品種改良 | | | | H28該当なし |
| 3 マーケットインの商品（もの）づくりを加速のための技術開発 | | | | |
| ・ 造林樹種における優良品種の選抜 | | | | H28該当なし |
| ・ スギ大径材の効率的な製材・乾燥技術の開発 | | | | |
| 1) 県産スギ大径材の有効利用技術に関する研究—心去構造物— | 木材チーム | なし | H27～29 | 県単 |
| ・ 枠組壁工法への県産スギ・ヒノキ利用技術の開発 | | | | |
| 1) 枠組壁工法建築物の県産材利用に向けた検討 | 木材チーム | 大分大学 | H26～28 | 県単 |
| ・ 土場・市場等での丸太選別技術（強度/含水率等）の開発 | | | | H28該当なし |
| ・ 中・大規模木造建築物等の維持管理技術（居住性・耐久性等）の開発 | | | | H28該当なし |
| ・ マイクロ波等を活用した高速・高品質乾燥技術の開発 | | | | H28該当なし |
| ・ 早生樹等の材質特性（強度・加工・耐久性能）と利用技術の開発 | | | | H28該当なし |
| ・ 薬用系機能性樹木の栽培技術の開発 | | | | H28該当なし |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・ スギ挿し木苗の増産技術の確立 | | | | H28該当なし |
| ・ ロボット等作業負荷軽減システムの開発 | | | | H28該当なし |
| ・ 早生品種の選抜と育林技術の確立システムの確立 | | | | H28該当なし |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・ 森林病害虫対策 | | | | H28該当なし |
| ・ 強毒性センチュウに対応する抵抗性マツの選抜 | | | | H28該当なし |
| ・ 伐採が及ぼす公益的機能への影響調査 | | | | H28該当なし |
| ・ 災害に強い森林づくり技術の確立 | | | | |
| 1) 災害に強い森林づくりのためのGISを用いたマップ化に関する研究 | 森林チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| ・ シカ捕獲対策の推進 | | | | |
| 1) ニホンジカの誘引技術に関する研究 | 森林チーム | なし | H28～29 | 県単 |
| ・ 県産材の抽出成分（精油等）利用技術の開発 | | | | H28該当なし |
| ・ 竹材・未利用材の有効活用技術の開発 | | | | |
| 1) 木質バイオマスの効率的エネルギー利用に関する研究 | 木材チーム | なし | H26～28 | 県単 |
| ・ 県産広葉樹を活用した木育製品の開発と普及 | | | | H28該当なし |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・ スギ雄花着生状況調査（花粉飛散量予測と雄花生産量の把握） | | | | |
| 1) スギ花粉発生源地域推定事業 | 森林チーム | なし | H28 | 委託 (全林協) |
| ・ 森林病害虫モニタリング(カシノナガキイムシ等) | | | | H28該当なし |
| ・ 優良種穂供給と苗木生産者への技術支援 | | | | H28該当なし |

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 項数 | 部数 |
|---------------------|--------|----|-----|
| 平成27年度林業試験場年報(第58号) | H28.7 | 70 | 200 |
| 林研だより(第78号) | H28.12 | 7 | HP |

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

| 執筆者 | 論文名 | 掲載誌名 | 巻(号) | 掲載頁 |
|-------------|---|-----------------|----------------------|----------|
| 松本 純 | 実用化進む・早生樹種いろいろ<センダン、コウヨウザン、チャンチンモドキ、ユリノキ> | GR現代林業 | 平成28年4月号通巻598号(2016) | 1p,4-6p |
| 古曳 博也 | 木製家具(ソファ)への県産材利用に関する研究 | GR現代林業 | 平成28年4月号通巻598号(2016) | 38-41p |
| 松本純 古曳博也 | 早生樹を活用した短伐期林業に関する研究 | 全国林業試験研究機関協議会々誌 | 第50号(2016) | 88-89p |
| 佐藤 嘉彦 | 穂木を低温貯蔵したスギ在来品種のさし木発根率 | 九州森林研究 | No.70(2017) | 79-81p |
| 松本 純 | スギコンテナ苗の根鉢サイズが植栽後の成長に与える影響 | 九州森林研究 | No.70(2017) | 163-164p |
| 藤田紘史郎 | スギさし木苗の増産に向けた穂木サイズと徒長抑制効果の検討 | 九州森林研究 | No.70(2017) | 75-77p |

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|-----------|------------------|-------|-------------------------------------|
| H28.9.13 | 第23回日本木材学会九州支部大会 | 河津 渉 | スギ大断面正角材の品質 —高温蒸気式高周波併用乾燥機による乾燥— |
| H28.10.18 | 森林・林業の技術交流発表大会 | 松本 純 | 民国連携した低コスト造林への取組(コンテナ苗の活着と成長について) |
| H28.11.5 | 第72回九州森林学会大会 | 佐藤 嘉彦 | 穂木を低温貯蔵したスギ在来品種のさし木発根率 |
| H28.11.5 | 第72回九州森林学会大会 | 松本 純 | スギコンテナ苗の根鉢サイズが植栽後の成長に与える影響 |
| H28.11.5 | 第72回九州森林学会大会 | 藤田紘史郎 | スギさし木苗の増産に向けた穂木サイズと徒長抑制効果の検討 |
| H29.3.27 | 第128回日本森林学会大会 | 佐藤 嘉彦 | さし木時期および穂木の低温貯蔵がスギ在来品種のさし木発根性に与える影響 |
| H29.3.28 | 第128回日本森林学会大会 | 松本 純 | 3Dレーザースキャナを用いた標準地調査について |

(4) 研究成果発表会等

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題数 | 参加者数 |
|------------------------------------|----------|------------------|----------------------|------|
| 平成28年度第2回 農林水産研究指導センター研究状況報告会 | H28.11.7 | 大分県庁舎本館 91会議室 | 発表:1課題 | 55 |
| 平成28年度 企業技術研修 | H28.2.2 | 林業研究部 | 講演:1課題 | 86 |
| 平成27年度 農林水産研究指導センター 林業研究部 研究発表会 | H28.2.14 | 林業研究部 | 口頭発表:3課題 特別講演:2課題 | 79 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考（共催、要請機関等） |
|---------------------------------|-------------------------------|--------------|----------------|-------------------|
| H28.5.30 | 林業普及技術等習得研修(森林保護) | 大分県庁舎 | 12 | 大分県 |
| H28.7.6 H28.7.13 H28.7.20 | 大分県立農業大学校講義 | 大分県立農業大学校 | 46 64 44 | 大分県立農業大学校 |
| H28.9.21 | フォレストワーカー集合研修(3年目) | 大分県林業研修所 | 13 | (公財)森林ネットおおいた |
| H28.9.27 H28.9.28 | 試験研究機関における実践研修 | 林業研究部 | 6 | 大分県 |
| H28.9.29 | 林業種苗生産事業者講習会 | 大分県庁舎 | 5 | 大分県 |
| H28.10.3 | 林業全般基礎研修Ⅱ(前期) | 林業研究部きのこグループ | 11 | 大分県 |
| H28.10.19 | 大分県立日田高等学校 スーパーサイエンスハイスクール | 大分県立日田高等学校 | 35 | 大分県立日田高等学校 |
| H28.10.21 | 大分県立日田林工高等学校 インターンシップ | 大分県立日田林工高等学校 | 2 | 大分県立日田林工高等学校 |
| H28.10.24 | フォレストワーカー集合研修(3年目) | 大分県林業研修所 | 13 | (公財)森林ネットおおいた |
| H28.11.7 H28.11.8 | 林業全般基礎研修Ⅱ(後期) | 林業研究部 | 13 | 大分県 |
| H28.11.27 | 長崎県県央地域早生樹シンポジウム | たらみ図書館(長崎県) | 100 | 長崎県 |
| H28.11.28 | 苗木生産初心者研修 | 大分県林業研修所 | 20 | (公財)森林ネットおおいた |
| H28.12.9 | 苗木生産講習会 | 日田郡森林組合 | 20 | 大分県樹苗生産農業協同組合日田支部 |
| H29.1.26 | コンテナ苗等低コスト再造林研修会 | 林業研究部 | 46 | 大分西部流域林業活性化センター |
| H29.2.15 | 抵抗性クロマツの挿し木等研修会 | 林業研究部 | 14 | 大分県樹苗生産農業協同組合 |
| H29.2.16 | 林業全般高度化研修Ⅱ | 大分県庁舎 | 49 | 大分県 |

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 |
|----------|-----|------|
| 生産者 | 27 | 35 |
| 団体等職員 | 92 | 387 |
| 普及指導員 | 23 | 60 |
| 学生 | 3 | 15 |
| 児童・生徒 | 3 | 91 |
| 海外からの視察者 | 0 | 0 |
| その他 | 53 | 325 |
| 計 | 201 | 913 |

※大学

※小中高校

③ 企業支援

| 区 分 | 件 数 | 金 額 (円) |
|---------|-----|-----------|
| 依 頼 試 験 | 103 | 2,470,345 |
| 機 械 貸 付 | 538 | 307,660 |
| 技 術 相 談 | 186 | — |
| 企 業 訪 問 | 37 | — |

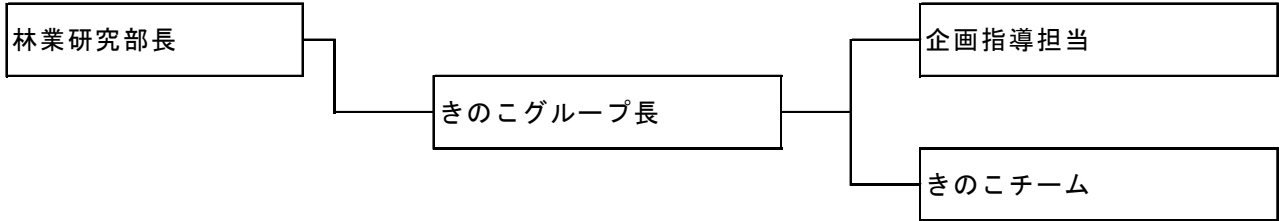
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|--------------------------|-----------------------------|---|
| 早生有用広葉樹等を活用した短伐期林業に関する研究 | 短伐期林業に適すると期待される早生樹の導入を推進する。 | 県西部において、「おおいた早生樹研究会」の運営を支援し、実証林地への植栽と生長量調査を実施すると共に、広葉樹を取り扱う福岡県の材木市場を調査し、早生樹の現地普及を図った。 |

II-7 きのごグループ

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組織 | 職種 | 職員 | | 技師 | 労務技師 | 業務技師 | 事務補佐 | 計 | 備考 |
|--------|----|----|----|----|------|------|------|----|-----------|
| | | 事務 | 技術 | | | | | | |
| グループ長 | | | 1 | | | | | 1 | |
| 企画指導担当 | | | 3 | | | | | 3 | 広域普及指導員2名 |
| きのごチーム | | | 6 | | | 1 | | 7 | |
| 計 | | 0 | 10 | 0 | 0 | 1 | 0 | 11 | |

(3) 業務

- ① シイタケを始めとするきのご類の栽培技術の改善・開発
- ② 栽培きのご類の育種技術による品種の改良・開発
- ③ 温暖化に対応した乾シイタケ安定生産技術の開発
- ④ クヌギチップを利用した菌床シイタケ及びキクラゲ栽培技術の研究
- ⑤ 病害虫等の防除技術の研究・普及
- ⑥ きのご類の分類・同定
- ⑦ 有用きのご類の遺伝子収集・保存による育種素材の確保
- ⑧ 研究成果の普及及び栽培技術指導
- ⑨ 新規参入者の研修・技術指導
- ⑩ 栽培技術情報の収集・管理と情報発信

2. 試験研究課題

林業研究部 きのごグループ

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|---|-----------|----------------|----------|----------|
| I 大課題、 1 中課題 ・ 研究項目 | | | | |
| ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | |
| ・ しいたけ栽培における省エネルギー及び施設利用技術の開発 | | | | |
| 1) 菌床シイタケ栽培の省エネルギー制御技術の開発 | きのご | | H27～29 | 県単 |
| ・ しいたけ栽培の軽労働化技術の開発 | | | H28該当なし | |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・ きのご類のブランド化に向けた品種開発 | | | | |
| 1) 有用きのご類の品種改良 | | | | |
| (1) シイタケの優良品種の開発 | きのご | | H26～(30) | 県単 |
| (2) ナメコの優良品種の開発 | きのご | | H26～(30) | 県単 |
| (3) マーカー利用選抜による気候変動に適応した菌床栽培用シイタケ品種の開発 | きのご | 森林総合研究所 | H28～32 | 国庫 |
| 3 マーケットインの商品（もの）づくりを加速のための技術開発 | | | | |
| ・ しいたけの食味や機能性等の食品としての特性評価 | | | | |
| 1) 県産乾シイタケの味覚と機能性に関する研究 | きのご | 九州大学 東京農業大学 | H28～30 | 県単 |
| 2) 農林水産物の輸出拡大のためのきのご類の品質向上 | きのご | 東京農業大学 | H27～28 | 県単 |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・ しいたけの生産力強化に向けた技術開発 | | | | |
| 1) シイタケの原木栽培技術の確立 | | | | |
| (1) 乾シイタケ栽培における効率的発生操作技術の開発 | きのご | | H26～30 | 県単 |
| (2) 原木生シイタケ栽培における冬期の生産量向上技術に関する研究 | きのご | | H26～28 | 県単 |
| 2) きのご類の病虫害防除技術の確立 | | | | |
| (1) きのご類栽培における害虫類の生態解明と防除技術 | きのご | | H26～28 | 県単 |
| (2) 高品質シイタケ安定生産に向けた天敵利用によるケミカルレスな害虫 | きのご | 森林総合研究所 | H28～30 | 国庫 |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・ クヌギチップや食品加工副産物等を利用したきのご類栽培技術の確立 | | | | |
| 1) 地域資源を活用した新たなきのご栽培に関する研究 | きのご | | H28～30 | 県単 |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・ 野生きのご類の遺伝子収集と保存 | きのご | | H元～ | 県単 |

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 頁数 | 部数 |
|------------------------|---------|----|-------|
| 林業研究部きのこグループ業務年報(第27号) | H28年11月 | 72 | 300 |
| 情報誌「くらんぷ」第47号 | H29年1月 | 7 | 2,500 |

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

| 執筆者 | 論文名 | 掲載誌名 | 巻(号) | 掲載項 |
|---------------------------|--|----------|-------|---------|
| 有馬 忍・篠原 弘亮・キム オッキョン・根岸 寛光 | 異なる栽培きのこから分離された <i>Ewingella americana</i> のシイタケおよびヒラタケに対する病原性 | 日本きのこ学会誌 | 24(3) | 136-141 |
| 飯田千恵美・甲斐 充・石井秀之・有馬 忍 | 温暖化に対応した乾シイタケ栽培技術ービニル被覆効果ー | 農耕と園芸 | 11月号 | 54-57 |
| 川口真司・有馬 忍 | 栄養体がアラゲキクラゲの発生に及ぼす影響 | 九州森林研究 | 70 | 121-123 |

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|----------|---------------|----------------------|---|
| H28.9.8 | 日本きのこ学会第20回大会 | 宮澤紀子・江口文陽・飯田千恵美・有馬 忍 | 官能評価による大分県産乾シイタケの嗜好性の検討 |
| H28.9.18 | 日本菌学会60周年記念大会 | 村上康明・山下和久 | シイタケ栽培の害虫ハラアコブカミキリの天敵微生物 <i>Beauveria brongniartii</i> による防除法 |
| H28.11.5 | 第70回九州森林学会大会 | 村上 康明 | ハラアコブカミキリの防除法(2)ー耕種的防除法と振動による落下捕殺の試みー |
| H28.11.5 | 第70回九州森林学会大会 | 川口真司・有馬 忍 | 栄養体がアラゲキクラゲの発生に及ぼす影響 |
| H29.3.19 | 第67回日本木材学会 | 宮澤紀子・江口文陽・飯田千恵美・有馬 忍 | 大分県産乾シイタケの品種による嗜好特性の解析 |

(4) 研究成果発表会等

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題数 | 参加者数 |
|--------------------|----------|---------|----------------------------|------|
| 平成28年度きのこグループ研究発表会 | H29.1.26 | きのこグループ | 口頭発表 2 情報提供 1 特別講演 2 | 95 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催

ア. 林業普及指導員研修

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|---------------|---------|------|--------------|
| H28.5.25 | 広域プロジェクト研修 | きのこグループ | 19 | 林務管理課 |
| H28.8.3 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H28.9.5 | 新任普及員研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H28.9.6 | 新任普及員研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H28.10.27 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H28.10.28 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H28.11.8 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H29.1.27 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 6 | 林務管理課 |
| H28.11.29 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H28.12.1 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 4 | 林務管理課 |
| H29.1.27 | 普及員養成試験研究実践研修 | きのこグループ | 6 | 林務管理課 |

63

イ. 林業普及技術習得研修

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|---------------|---------|------|--------------|
| H28.9.21 | 椎茸技術者会議 | きのこグループ | 15 | |
| H28.10.3 | 林業全般基礎研修Ⅱ | 県庁 | 10 | 林務管理課 |
| H28.10.4 | 林業全般基礎研修Ⅱ | 県庁 | 10 | 林務管理課 |
| H28.10.25 | 林業全般基礎研修(Ⅰ)後期 | きのこグループ | 9 | 林務管理課 |
| H28.10.26 | 林業全般基礎研修(Ⅰ)後期 | きのこグループ | 9 | 林務管理課 |
| H28.12.19 | 椎茸技術者会議 | きのこグループ | 14 | |

52

ウ. 大分しいたけ源兵衛塾(第7期)

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|----------------------|-----------|------|--------------|
| H28.7.28 | 大分しいたけ源兵衛塾開講式・第1回研修会 | きのこグループ | 24 | 林産振興室 |
| H28.8.31 | 大分しいたけ源兵衛塾第2回研修会 | きのこグループ | 32 | 林産振興室 |
| H28.10.26 | 大分しいたけ源兵衛塾第3回研修会 | 庄内・久住栽培現地 | 24 | 林産振興室 |
| H29.1.26 | 大分しいたけ源兵衛塾第4回研修会 | 豊後大野市 | 23 | 林産振興室 |

103

エ. 新規参入者研修(栽培体験コースを含む)

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|-------------------|---------|------|--------------|
| H28.5.30 | 北部・東部合同ステップアップ研修会 | 東部振興局 | 32 | 東部振興局・北部振興局 |
| H28.9.25 | 第1回しいたけ栽培新規参入者研修会 | きのこグループ | 34 | 林産振興室 |
| H28.10.20 | 北部・東部合同ステップアップ研修会 | 杵築市 | 22 | 東部振興局・北部振興局 |
| H28.10.30 | 第2回しいたけ栽培新規参入者研修会 | きのこグループ | 31 | 東部振興局 |
| H29.2.8 | 北部・東部合同ステップアップ研修会 | OSK国東支部 | 29 | 東部振興局・北部振興局 |
| H29.2.19 | 第3回しいたけ栽培新規参入者研修会 | きのこグループ | 28 | 林産振興室 |
| H29.3.12 | 第4回しいたけ栽培新規参入者研修会 | きのこグループ | 27 | 林産振興室 |

203

オ. きのこ生産研修

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|--------------------------|-----------|------|--------------|
| H28.4.14 | ほだ場のサル被害対策協議 | 豊後大野市 | 7 | 豊肥振興局 |
| H28.4.18 | 日本一のなば山師になろう会 | 豊後大野市 | 21 | 豊肥振興局 |
| H28.4.28 | ほだ場のサル被害対策協議 | 豊後大野市 | 7 | 豊肥振興局 |
| H28.5.19 | ほだ場のサル被害対策協議 | 豊後大野市 | 8 | 豊肥振興局 |
| H28.6.1 | おのぼり会発足式、第1回通常総会 | 竹田市 | 36 | 豊肥振興局 |
| H28.6.8 | ほだ場のサル被害対策協議 | 豊後大野市 | 12 | 豊肥振興局 |
| H28.7.12 | 中津市原木生しいたけ研究会研修会 | 中津市 | 9 | 北部振興局 |
| H28.7.22 | しいたけ原基塾第1回研修会 | きのこグループ | 20 | 豊肥振興局 |
| H28.7.22 | 大分県椎茸農協中央支部連合会青壮年部夏期研修会 | OSK 本部 | 15 | 県椎茸農協 |
| H28.8.24 | 由布市椎茸生産者協議会 | きのこグループ | 12 | |
| H28.9.14 | 国東町椎茸生産小組合連合会研修会 | きのこグループ | 20 | 東部振興局 |
| H28.9.15 | 由布市現地視察研修 | きのこグループ | 19 | 中部振興局 |
| H28.9.16 | OSK県南地区地区連合会秋期栽培研修会 | きのこグループ | 85 | 豊肥振興局 |
| H28.9.27 | 平成28年度豊後大野市椎茸振興会緒方支部研修会 | 豊後大野市 | 20 | 豊肥振興局 |
| H28.9.30 | 国東夫婦視察研修 | きのこグループ | 11 | 東部振興局 |
| H28.10.21 | 豊肥しいたけ原基塾第2回研修会 | きのこグループ | 15 | 豊肥振興局 |
| H28.11.11 | 豊後大野市サル被害対策意見交換会 | 豊後大野市 | 19 | 豊肥振興局 |
| H28.11.15 | シイタケほだ木の害菌(ペルタータ)被害対策検討会 | 佐伯市 | 17 | 南部振興局 |
| H28.11.30 | 豊後大野市椎茸振興会三重支部栽培研修会 | きのこグループ | 10 | 豊肥振興局 |
| H28.12.22 | しいたけ原基塾第3回研修会 | 国東市、豊後大野市 | 25 | 豊肥振興局 |
| H29.1.20 | おのぼり会研修会 | 竹田市 | 22 | 豊肥振興局 |
| H29.2.10 | 安心院町椎茸生産組合通常総会 | 宇佐市 | 33 | 北部振興局 |
| H29.3.14 | OSK新規採用職員研修会 | きのこグループ | 5 | |

448

カ. 人材育成研修等

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|----------|-------------|---------|------|--------------|
| H28.7.12 | 農業大学講義 | きのこグループ | 14 | |
| H28.7.19 | 農業大学講義 | きのこグループ | 13 | |

27

キ. 市場・流通関係

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|-----------------|-----------|------|--------------|
| H28.5.18 | 生椎茸生産流通懇談会役員会 | 県庁 | 3 | 林産振興室 |
| H28.6.28 | 大分県椎茸振興協議会通常総会 | JAおおい本店 | 30 | |
| H28.10.14 | プレミアム生しいたけ意見交換会 | JA大分豊肥事業部 | 28 | 森産業 |
| H29.3.21 | プレミアム生しいたけ意見交換会 | JA大分豊肥事業部 | 18 | 森産業 |

79

ク. 品評会

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|----------------------------|-----------|------|--------------|
| H28.4.18 | 第10回東部地区乾椎茸品評会審査会 | 国東市 | 11 | |
| H28.4.19 | 第5回豊後大野市乾椎茸品評会審査会 | 豊後大野市 | 24 | |
| H28.4.20 | 第8回竹田市乾椎茸品評会審査会 | OSK竹田支部 | 16 | |
| H28.4.20 | 佐伯市乾椎茸品評会審査会 | OSK県南支部 | 18 | |
| H28.4.21 | 第10回宇佐市乾椎茸品評会審査会 | 宇佐市 | 10 | |
| H28.4.21 | 豊後大野市乾椎茸品評会 | 豊後大野市 | 110 | |
| H28.4.22 | 第10回中津市乾椎茸品評会審査会 | 中津市 | 10 | |
| H28.4.23 | 佐伯市乾椎茸品評会 | 佐伯市 | 45 | |
| H28.4.25 | 第8回豊後高田市乾椎茸品評会審査会 | 豊後高田市 | 10 | |
| H28.4.26 | 竹田市乾椎茸品評会 | JA大分竹田事業部 | 54 | |
| H28.5.9 | 第59回大分県乾椎茸品評会審査会(箱物) | OSK本部 | 24 | |
| H28.5.16 | 第59回大分県乾椎茸品評会審査会(袋物) | OSK本部 | 28 | |
| H28.5.31 | 第5回JAおおいた乾椎茸品評会審査会(袋物) | JAおおいた本店 | 12 | |
| H28.6.4 | 大分県乾椎茸品評会表彰式 | OSK本部 | 530 | |
| H28.11.21 | 第28回大分県生しいたけ品評会審査会 | 大分市 | 50 | |
| H28.11.22 | 第28回大分県生しいたけ品評会表彰式・講演会・即売会 | 大分市 | 200 | |
| H29.1.18 | 竹田市ほだ場コンクール審査会 | 竹田市 | 12 | |

1,164

ケ. 一般消費者関係

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|----------------------|-----------|------|--------------|
| H28.7.7 | 乾しいたけ祭り(乾しいたけの日イベント) | 大分市 | 520 | 林産振興室 |
| H28.10.14 | 生しいたけ旬入り宣言式 | 大分市公設卸売市場 | 900 | 林産振興室 |
| H28.10.15 | 大分県農林水産祭 | 別府市 | 400 | |
| H28.10.16 | 大分県農林水産祭 | 別府市 | 500 | |
| H28.11.12 | 農業大学校祭 | 豊後大野市 | 80 | |
| H29.2.18 | 生しいたけ販売促進活動 | 京都市 | 300 | 林産振興室 |

2,700

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 |
|----------|----|------|
| 生産者 | 33 | 749 |
| 団体等職員 | 1 | 5 |
| 普及指導員 | 14 | 86 |
| 学生 | 2 | 27 |
| 児童・生徒 | 0 | 0 |
| 海外からの視察者 | 0 | 0 |
| その他 | 0 | 0 |
| 計 | 50 | 867 |

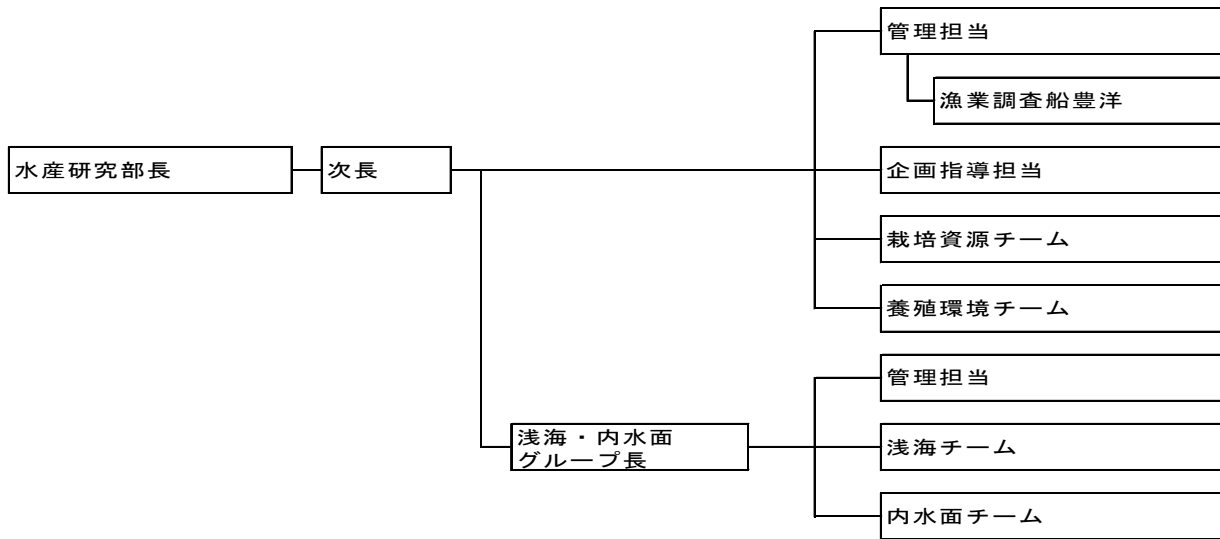
(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|---------------------------|--|--|
| シイタケほだ木の育成段階における水分管理技術の確立 | 栽培現場におけるほだ木育成期間の環境条件や管理方法がほだ木に及ぼす影響を明らかにし、ほだ木育成技術の向上を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・県内6箇所の伏せ込み地で環境及びほだ化調査を行い、結果の分析やとりまとめを行う。 ・水分管理実施者を増やすため、源兵衛塾生を重点指導対象にする。 |

II-8 水産研究部（浅海・内水面グループ含む）

1. 組織および職員配置状況

(1) 組織



(2) 職員配置状況

平成28年4月1日現在

| 組織 | | | 職種 | 職員 | | 技師 | 労務技師 | 業務技師 | 事務補佐 | 計 | 備考 |
|-------|------------|---------|----|----|----|----|------|------|------|----|--------|
| | | | | 事務 | 技術 | | | | | | |
| 水産研究部 | (上浦) | 部長 | | 1 | | | | | | 1 | 海事職員6名 |
| | | 次長 | | 1 | | | | | | 1 | |
| | | 管理担当 | 2 | 6 | | | | | | 8 | |
| | | 企画指導担当 | | 2 | | | | | | 2 | |
| | | 栽培資源チーム | | 7 | | | | | | 7 | |
| | 養殖環境チーム | | 7 | | | | | | 7 | | |
| | 浅海・内水面グループ | グループ長 | 2 | 1 | | | | | | 1 | |
| | 管理担当 | | 2 | | | | | | 2 | | |
| | 浅海チーム | | 8 | | | | | | 8 | | |
| | 内水面チーム | | 3 | | | | | | 3 | | |
| 計 | | | | 5 | 35 | 0 | 0 | 0 | 0 | 40 | |

(3) 業務

- ① 漁業の調査研究に関すること
- ② 漁業の生産及び技術指導に関すること
- ③ 水産動植物の増養殖に関すること
- ④ 漁業技術の改良普及に関すること
- ⑤ 水産動物の防疫等指導に関すること
- ⑥ 水産物の利用加工等指導に関すること
- ⑦ 漁場環境保全・赤潮防止技術に関すること
- ⑧ その他水産業の技術指導に関すること

2. 試験研究課題 (1/2)
水産研究部所管分

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|---|-----------|------------------------------|----------|------------|
| I 大課題、 1 中課題 ・ 研究項目 | | | | |
| ※「・研究項目」以下の区分：1）、（1）、① | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | |
| ・ 複合養殖に向けたヒラマサ種苗生産技術開発 | 栽培資源 | | H25～29 | 県単 |
| ・ 養殖生産の低コスト化・成長制御 | | | | |
| ・ 養殖手法・施設の改善 | | | | |
| ・ 流通改善・輸出促進支援研究 | | | | |
| 1) 農林水産物輸出拡大対策 | 養殖環境 | | | 県単 |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・ ヒラメの高水温耐性品種の作出（Ⅱ期） | 栽培資源 | 養殖環境 | H27～29 | 県単 |
| ・ 養殖生産物の品質改善 | | | | |
| 1) カボスがつなぐブランド魚創出事業 | 養殖環境 | 別府大学 | H27～29 | 県単 |
| ・ 生産物の品質評価技術確立 | | | H28該当なし | |
| 3 マーケットインの商品（もの）づくりを加速のための技術開発 | | | | |
| ・ ブリ種苗生産技術開発 | 栽培資源 | | H28～30 | 県単 |
| ・ マグロ種苗生産技術開発 | | | H28該当なし | |
| ・ 新規養殖対象種の種苗生産と養殖技術の開発 | | | | |
| 1) ブリ養殖業構造改革推進事業 | 栽培資源 | | | 県単 |
| ・ 養殖魚の抗病性強化法・新規ワクチン開発 | | | | |
| 1) 陸上魚類養殖疾病対策研究 | 養殖環境 | (国研)水産研究・教育機構 東京海洋大学、宮崎県 | H26～28 | 県単 委託 |
| 2) 地域養殖業振興対策事業（ヒラメクドア） | 養殖環境 | | H26～28 | 県単 |
| 3) 水産資源管理実践支援事業（アワビ検査） | 養殖環境 | | H25～ | 県単 |
| ・ 養殖魚の寄生虫防除法開発 | | | | |
| 1) 安心・安全で環境に優しい養殖推進事業（はだむし対策） | 養殖環境 | | | 県単 |
| ・ 鮮度保持技術開発 | | | H28該当なし | |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・ 資源に関する基礎調査（モニタリング調査） | 栽培資源 | (国研)水産研究・教育機構、関係県 | H12～ | 委託 |
| ・ 豊予海峡周辺海域におけるマアジ・マサバの資源生態に関する研究 | 栽培資源 | | H27～29 | 県単 |
| ・ タチウオ資源回復推進に関する研究 | 栽培資源 | (国研)水産研究・教育機構 | H26～ | 国庫補助 |
| ・ 釣り漁業における新たな漁法の開発 | 栽培資源 | | H27～28 | 県単 |
| ・ アオリイカの資源生態研究 | | | | |
| 1) 資源管理関係事業（モイカ） | 栽培資源 | | H28～29 | 国庫補助 |
| ・ ハモの資源生態研究 | | | | |
| 1) 戦略魚種ハモ資源管理対策事業 | 栽培資源 | | H28～30 | 県単 |
| ・ ブリの資源生態研究 | | | H28該当なし | |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・ 磯焼け対策に関する技術開発(モニタリング調査) | 栽培資源 | | H16～ | 県単 |
| ・ 赤潮・貝毒被害防止技術の開発 | | | | |
| 1) 赤潮早期予測・早期対策実証事業 | 養殖環境 | (国研)水産研究・教育機構 | H27～29 | 県単 委託 |
| 2) 漁場環境保全推進事業（赤潮・貝毒発生監視） | 養殖環境 | | | 県単 |
| 3) 低水温期発生型赤潮対策強化事業 | 養殖環境 | | | 県単 |
| ・ 無給餌養殖・水産植物利用の推進 | | | H28該当なし | |
| ・ 環境保全に関する研究 | | | H28該当なし | |
| ・ 未利用水産物の有効利用研究 | | | H28該当なし | |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・ 基盤整備・栽培漁業・資源回復の推進に関する基礎調査 | 栽培資源 | | H26～28 | 県単 |
| ・ 資源環境に関するデータの収集、情報の提供（情報提供事業） | 栽培資源 | (国研)水産研究・教育機構 | 長期 | 県単 委託 |
| ・ 持続的養殖生産確保推進事業（海面防疫対策）（指導事業） | 養殖環境 | (国研)水産研究・教育機構 | H12～ | 国庫補助 委託 |
| ・ 養殖漁場の適正利用推進調査（モニタリング事業） | 養殖環境 | | H12～ | 県単 |
| ・ 漁場環境・生物多様性保全総合対策委託事業（赤潮モニタリング） | 養殖環境 | (国研)水産研究・教育機構、山口県、福岡県等、浅海チーム | H25～ | 委託 |
| ・ 水産加工品等高度利用化指導（指導事業） | 養殖環境 | 各振興局 | H26～ | 県単 |

2. 試験研究課題 (2/2)

水産研究部 浅海・内水面グループ所管分

| 試験研究課題名 | 担当 チーム | 連携 機関 | 研究 期間 | 予算 区分 |
|---|-----------|------------------------------------|--------------|------------------|
| I 大課題、 1 中課題 ・ 研究項目 | | | | |
| ※「・研究項目」以下の区分：1)、(1)、① | | | | |
| I 構造改革を加速し、もうかる農林水産業を実現するための研究開発 | | | | |
| 1 構造改革の更なる加速のための技術開発 | | | | |
| ・ 海藻（ヒジキ、クロメ、ワカメ等）の新たな養殖技術開発 | | | | |
| 1) 養殖ヒジキの品質向上と養殖用種苗供給技術の確立(Ⅱ期) | 浅海 | | H27～29 | 県単 |
| 2) 地域養殖業拡大総合対策事業(クロメ) | 浅海 | | H27～28 | 県単 |
| ・ クルマエビ養殖場を利用したアサリ養殖 | | | | |
| 1) クルマエビ養殖場を利用したアサリ混合養殖システムの開発 | 浅海 | (国研)水産研究・教育機構 | H28～30 | 委託 |
| 2 ブランド化のための技術開発 | | | | |
| ・ 養殖生産物の品質改善 | | | | |
| 1) おおいた農産品を利用した高品質で抗病性を高める飼料開発 | 内水面 | | H27～29 | 県単 |
| 3 マーケットインの商品(もの)づくりを加速のための技術開発 | | | | |
| ・ 瀬戸内海におけるカレイ類の生活史循環とその阻害要因の解明 | 浅海 | (国研)水産研究・教育機構、山口、福岡、愛媛県 | H25～29 | 委託 |
| ・ ナマコおよびアサリ等二枚貝の種苗生産技術開発 | 浅海 | | H28該当なし | |
| 1) タイラギの増養殖手法開発と資源調査 | 浅海 | (国研)水産研究・教育機構、香川、山口県 | H27～ | 県単委託 |
| ・ 新規養殖種及び増養殖手法の探索 | | | | |
| 1) マコガレイ飼育・採卵試験 | 浅海 | | H28 | 県単 |
| ・ ノリ養殖指導、情報提供 | 浅海 | | 長期 | 県単 |
| ・ 内水面における魚病診断及び魚病対策の研究 | 内水面 | 養殖環境 | H12～ | 国庫補助 |
| 4 力強い担い手を育成するための技術開発 | | | | |
| ・ 二枚貝の資源動向の把握および回復施策の検討 | | | | |
| 1) 地域重要魚貝類の資源動向及び回復施策に関する研究 | 浅海 | | 長期 | 県単 |
| ・ ヒジキ資源維持増大技術の開発 | 浅海 | | H26～28 | 県単 |
| ・ 資源に関する基礎調査(モニタリング調査) | | | | |
| 1) 資源管理関係事業 | 浅海 | | — | 県単 国庫補助 |
| ・ ハモの資源生態研究 | | | | |
| 1) 戦略魚種ハモ資源管理対策事業 | 浅海 | | H28～30 | 県単 |
| ・ ガザミの資源生態研究 | | | | |
| 1) 資源管理強化対策事業(ガザミ) | 浅海 | | H28～ | 国庫補助 |
| 2) DNA解析によるガザミ標識放流効果算出手法 | 浅海 | | H28 | 県単 |
| ・ ヨシエビ、シャコ、カレイ類等の資源動向調査 | 浅海 | | — | 県単 |
| ・ 資源保護のための漁具改良 | | | H28該当なし | |
| ・ 河川ごとの漁場評価による効果的な天然アユ増殖技術の開発 | | | H28該当なし | |
| 5 地域資源の活用と環境対策のための技術開発 | | | | |
| ・ アサリ天然稚貝の利用と資源回復推進に関する研究 | | | | |
| 1) 生態系ネットワークによるアサリ資源回復・生態系修復技術の開発 | 浅海 | (国研)水産研究・教育機構、愛媛、岡山県 | H25～29 | 委託 |
| ・ 海域の栄養塩等と生物生産に関する研究 | | | | |
| 1) 森林起源の有機物・栄養塩と海洋の生態との実態解明 | 浅海 | 京都大学 | H26～28 | 県単 |
| ・ 赤潮・貝毒被害防止技術の開発 | | | | |
| 1) 漁場環境保全推進事業(赤潮、貝毒、下水処理等) | 浅海 | (国研)水産研究・教育機構、愛媛大学、山口、福岡、愛媛、宮崎、広島県 | 長期 一部H28～ | 県単 国庫補助 委託 |
| ・ 水産生物を利用した環境改善技術の開発 | | | | |
| 1) ナマコの増殖・放流技術の開発及び環境浄化機能の検証 | 浅海 | | H26～28 | 県単 |
| ・ 有害生物被害対策 | | | | |
| 1) 外来魚・カワウ等による食害被害軽減対策指導 | 内水面 | | 長期 | 県単 |
| ・ 陸封アユ有効利用手法の開発 | | | | |
| 1) 三隈川水系におけるアユの生息環境の把握と陸封アユ有効利用手法の開発 | 内水面 | | H28～30 | 県単 |
| II 研究を支える基礎調査と優良種苗管理 | | | | |
| ・ 豊前海アサリ資源量調査 | | | | |
| 1) アサリ資源回復 | 浅海 | | — | 県単 委託 |
| ・ 基盤整備・栽培漁業・資源回復の推進に関する基礎調査 | 浅海 | | — | 県単 |
| ・ 資源に関する基礎調査(浅海定線調査等) | 浅海 | (国研)水産研究・教育機構 | 長期 | 県単 委託 |
| ・ 資源環境に関する情報の提供 | 浅海 | | 長期 | 県単 |
| ・ 天然アユ・ウナギ、イワメ及び在来アマゴ生息量のモニタリング | | | | |
| 1) 漁場環境・水生生物に関するモニタリング調査(アユ、イワメ、アマゴ) | 内水面 | | H21～ | 県単 |
| 2) 海域でのうなぎ生息調査事業 | 内水面 | (国研)水産研究・教育機構 | H28～30 | 繰入金 |
| ・ 河川環境モニタリング | | | | |
| 1) 漁場環境保全推進事業(内水面) | 内水面 | | H22～ | 県単 |
| ・ 持続的養殖生産確保推進事業(内水面防疫対策)(指導事業) | | | | |
| 1) 魚病診断と対策指導 | 内水面 | 養殖環境 | H12～ | 県単 |

3. 研究成果の公表及び情報発信

(1) 刊行物等の発行

| 刊行物誌名 | 刊行年月日 | 頁数 | 部数 |
|--------------------------------|----------|----|------|
| おおいたアクア・ニュースNo.43 | H28.7.14 | 15 | 360 |
| ヒジキ資源増大のための手引き | H28.9.30 | 31 | HP掲載 |
| 大分県農林水産研究指導センター研究報告(水産研究部編)第6号 | H29.3.1 | 78 | 200 |
| おおいたアクア・ニュースNo.44 | H29.1.31 | 15 | 360 |

(2) 学会誌、専門誌等への投稿

| 執筆者 | 論文名 | 掲載誌名 | 巻(号) | 掲載項 |
|---|--|---------------|---------|---------|
| 山本 桂伊 | 「大分ヒラマサ」養殖推進の取り組み ”知る人ぞ知る高級魚”から”大分の新たな顔”へ | アクアネット | 20(2) | 41-44 |
| 福田 穰 | 海産魚類の疾病防除法に関する研究 | 魚病研究 | 51(4) | 137-143 |
| 木藪 仁和 | 「これぞ大分」先駆け武者たる魚づくり ～「かぼすブリ」開発の取り組み | アクアネット | 19(5) | 26-29 |
| 深田陽久・大山憲一、山下浩史、木藪仁和 | フルーツ魚の開発 | 海洋と生物 | 38(5) | 601-611 |
| 川上恵・木藪仁和・木本圭輔 | カワハギ・ウマヅラハギ養殖の現状 | 養殖ビジネス | 54(2) | 7-8 |
| Shikata, T. Onitsuka, G. Abe, K. Kitatsuji, S. Yufu, K. Yoshikawa, Y. Miyamura, K. | Relationships between light environment and subsurface accumulation during the daytime in the red-tide dinoflagellate <i>Karenia mikimotoi</i> . | Mar Biol | 164(18) | 1-12 |
| Yamaguchi H, Hirano T, Yoshimatsu T, Tanimoto Y, Matsumoto T, Suzuki S, Hayashi Y, Urabe A, Miyamura K, Sakamoto S, Yamaguchi M, Tomaru Y | Occurrence of <i>Karenia papilionacea</i> (Dinophyceae) and its novel sister phylotype in Japanese coastal waters. | Harmful Algae | 57 | 59-68 |
| 宮村和良・鬼塚剛 | 衛星リモートセンシングを利用した赤潮監視 (シンポジウム 沿岸海洋学における観測研究の最前線(2)衛星観測) | 沿岸海洋研究 | 54(1) | 49-55 |

(3) 研究会、学会等での発表

| 発表年月日 | 研究会、学会等の名称 | 発表者 | 発表課題名 |
|-------------|--------------------|------------------------------------|--|
| H28. 8. 9 | 豊後水道研究会 | 中尾拓貴 | 標識放流結果からみた豊後水道におけるマアジの移動 |
| H28. 9. 7 | 平成28年度日本魚病学会秋季大会 | 大林和哉・福田 穰・柳 宗悦・南 隆之・西木一生・吉田 照豊 | <i>Lactococcus garvieae</i> II型の疫学調査 |
| H28. 10. 27 | 中央ブロック資源海洋調査研究会 | 中尾拓貴 | 外部形態によるマアジの雌雄判別 |
| H28. 11. 26 | 2016年度水産海洋学会研究発表大会 | 西村碩教・杉本亮・宮村和良・大竹周作 | 大分県猪串湾における海底湧水の空間分布と湧出量の評価 |
| H28. 11. 27 | 水産海洋学会研究発表会 | 中尾拓貴 | 豊予海峡周辺海域におけるマアジ親魚の資源量推定 |
| H28. 12. 2 | 第12回バイオロギングシンポジウム | 森友彦・宮村和良・紫加田知幸・鬼塚剛・佐藤克文 | 生け簀内における養殖ブリの行動生態 |
| H29. 3. 11 | 平成29年度日本魚病学会春季大会 | 福田 穰 | 市販ワクチンの現場における使用の実態，課題と問題点：レンサ球菌症 |
| H29. 3. 11 | 平成29年度日本魚病学会春季大会 | 小林圭吾・白樫 正・杉原志貴・福田 穰・山下浩史・廣野育生・近藤秀裕 | 日本各地で採取された <i>Benedenia seriolae</i> のミトコンドリアDNAの全長配列の決定および各地域の塩基配列の比較 |
| H29. 3. 27 | 平成29年度日本水産学会春季大会 | 島崎洋平・宮村和良・大竹周作 | 水中観測型蛍光分光器を用いた有害渦鞭毛藻 <i>Karenia mikimotoi</i> の現場モニタリングの検討 |
| H29. 3. 29 | 平成29年度日本水産学会春季大会 | 山田英俊・石樋由香・須賀光晴 | 地撒き混合養殖に用いるクルマエビとアサリの種苗サイズの検討 |

(4) 研究成果発表会等

| 発表会の名称 | 開催年月日 | 開催場所 | 発表課題数 | 参加者数 |
|--|-------------|----------------|-------|------|
| 平成28年度第1回 農林水産研究指導センター農林水産試験研究状況報告会 | H28.7.27 | 県庁舎本館 71会議室 | 1 | 50 |
| 平成28年度大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会 | H29.1.19～20 | コンパルホール | 13 | 63 |

4. 研究成果の普及、技術指導

(1) 講習会、研修会等の開催 (1/2)

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|-----------|--|-----------|------|---------------------|
| H28.4.21 | 平成27年度 豊前海におけるタイラギ資源量調査結果 | 浅海チーム | 18 | 大分県宇佐支店底曳き協議会 |
| H28.4.25 | 注射ワクチン接種技術講習会 | 水産研究部 | 20 | 大分県水産養殖協議会 |
| H28.5.1 | 臼杵地区小型船安全協会講習会 | 臼杵市 | 60 | 臼杵地区小型船安全協会 |
| H28.5.6 | 豊前海における水産研究の調査・研究について | 宇佐市 | 20 | 豊前海青年協議会 |
| H28.5.17 | 大分県漁協臼杵支店一本釣り漁業者協議会研修会 | 臼杵市 | 20 | 大分県漁協臼杵支店一本釣り漁業者協議会 |
| H28.6.2 | 大分県漁協佐賀関支店青年部視察研修会 | 水産研究部 | 10 | 大分県漁協佐賀関支店青年部 |
| H28.6.4 | つり漁業の新たな漁法開発研究結果報告会 | 国東市 | 7 | 大分県漁協安岐支店一本釣り部会 |
| H28.6.20 | ネクスト勉強会 | 臼杵市 | 20 | ネクスト |
| H28.6.27 | 豊後別府湾ちりめん協議会講習会 | 別府市 | 26 | 豊後別府湾ちりめん協議会 |
| H28.6.28 | かぼすブリ漁協関係者講習会 | 大分県水産会館 | 8 | 大分県漁業協同組合 |
| H28.7.8 | 魚類養殖講習会 | JF大分佐伯支店 | 33 | 大分県水産養殖協議会 |
| H28.7.26 | かぼすブリ生産者講習会 | JF大分佐伯支店 | 21 | 大分県漁業協同組合 |
| H28.8.1 | かぼすブリ流通関係者講習会 | 大分県水産会館 | 21 | 大分県漁業協同組合 |
| H28.8.9 | 豊の活ぶり研究会 | 大分県水産会館 | 9 | 大分県漁業協同組合 |
| H28.8.22 | 北海道海域水産振興協議会 | 臼杵市 | 24 | 北海道海域水産振興協議会 |
| H28.8.26 | かぼすブリ生産者講習会 | JF大分佐伯支店 | 21 | 大分県漁業協同組合 |
| H28.8.30 | かぼすブリ流通関係者講習会 | JF大分フレ工場 | 10 | 大分県漁業協同組合 |
| H28.9.14 | 注射ワクチン接種技術講習会 | 水産研究部 | 2 | 大分県水産養殖協議会 |
| H28.10.3 | つり漁業の新たな漁法開発研究結果報告会 | 国東市 | 12 | 大分県漁協武蔵支店 |
| H28.10.4 | ヒラメ組合 カボス給餌試験結果報告会 | JF大分下入津支店 | 10 | ヒラメ組合 |
| H28.10.19 | 大分県立佐伯鶴城高校研修会 | 水産研究部 | 19 | 大分県立佐伯鶴城高校 |
| H28.10.31 | つり漁業の新たな漁法開発研究結果報告会 | 国東市 | 5 | 大分県漁協国見支店 |
| H28.11.10 | 遡上アユを増やすための産卵場造成時期とは ～孵化時期の盛期からの推定～ | 別府市 | 11 | 全国湖沼河川養殖研究会西日本ブロック |
| H28.12.4 | 豊後別府湾ちりめん加工組合講習会 | 別府市 | 15 | 豊後別府湾ちりめん加工組合 |
| H28.12.12 | 大分海区漁業調整委員会 | 大分市 | 25 | 大分海区漁業調整委員会 |
| H28.12.6 | トラフグ養殖部会講習会 | JF大分下入津支店 | 19 | 大分県水産養殖協議会 |
| H28.12.6 | 内水面魚病講習会 カボス給餌効果講習 | かんぼの宿別府 | 30 | |
| H28.12.20 | 大分県のカワウ生息状況と対策 | 大分市 | 80 | 環境省九州地方環境事務所野生物課 |

(1) 講習会、研修会等の開催 (2/2)

| 開催年月日 | 講習会、研修会等の名称 | 開催場所 | 参加者数 | 備考(共催、要請機関等) |
|----------|--|-----------|------|-------------------|
| H29.1.27 | トラフグ部会 カボス給餌試験結果報告会 | JF大分下入津支店 | 15 | トラフグ部会 |
| H29.1.27 | アユ調査結果報告 | 豊後大野市 | 20 | 大野川漁業協同組合 |
| H29.1.30 | かぼすブリ漁協関係者講習会 | 大分県水産会館 | 10 | 大分県漁業協同組合 |
| H29.2.10 | 東国東漁業青年協議会学習会 | 別府市 | 20 | 東国東漁業青年協議会 |
| H29.2.13 | カワウによる被害と防除について | 宇佐市 | 320 | 北部振興局 |
| H29.2.17 | 豊後水道北部海面利用地区協議会講習会 | 臼杵市 | 10 | 豊後水道北部海面利用地区協議会 |
| H29.2.18 | 周防灘小型底びき網漁業者検討会 | 宇佐市 | 21 | 周防灘小型底びき網漁業者検討会 |
| H29.2.18 | 2016年アサリ資源量一斉調査の結果 | 宇佐市 | 19 | 大分県漁協 |
| H29.2.24 | 2016年遡上アユを対象にした調査結果の紹介 | 別府市 | 15 | 大分県内水面漁業協同組合連合会 |
| H29.3.2 | 農林水産分野におけるドローンの活用について | 宇佐市 | 200 | 北部地区食料・農業・農村振興協議会 |
| H29.3.10 | 大分県漁業士連絡協議会漁船漁業部会学習会 | 大分市 | 20 | 大分県漁業士連絡協議会漁船漁業部会 |
| H29.3.11 | 大分県漁協臼杵支店青年部学習会 | 臼杵市 | 20 | 大分県漁協臼杵支店青年部 |
| H29.3.15 | 北郡一本釣りと臼津まき網漁業との調整会議 | 臼杵市 | 25 | 大分県漁協 |
| H29.3.15 | かぼすブリ漁協関係者講習会 | JF大分長洲工場 | 2 | 大分県漁業協同組合 |
| H29.3.17 | 水産養殖協議会賛助会員講習会 | JF大分佐伯支店 | 13 | 大分県水産養殖協議会 |
| H29.3.17 | 水産養殖協議会青年部会講習会 | JF大分佐伯支店 | 30 | 大分県水産養殖協議会 |
| H29.3.22 | 中津市小祝地先におけるタイラギ養殖試験結果 | 中津市 | 30 | 中津干潟を元気にする会 |
| H29.3.22 | 吸引ポンプを用いたホトギス駆除とアサリ稚貝混獲結果及び移植したアサリ稚貝の成長と生残 | 中津市 | 30 | 中津干潟を元気にする会 |
| H29.3.22 | 中津小祝地先に放流したアサリ人工種苗に対するパーキンサス属原虫の感染実態について | 中津市 | 30 | 中津干潟を元気にする会 |
| H29.3.25 | 大分県タチウオ資源回復漁業者検討会 | 大分市 | 27 | 大分県漁協 |

(2) 受入研修

① 長期研修受け入れ

該当なし

② 生産者、団体職員、改良普及指導員等短期受入研修及び視察対応

| 対象者 | 件数 | 受入人数 |
|-------|----|------|
| 生産者 | 2 | 14 |
| 団体等職員 | 0 | 0 |
| 普及指導員 | 0 | 0 |
| 学生 | 3 | 25 |
| 海外研修者 | 2 | 11 |
| その他 | 2 | 118 |
| 総計 | 9 | 168 |

(3) 指導・研修プロジェクトの実証

| 課題名 | 目的 | 現地実証等の概要 |
|---------------------|--|--|
| 「かぼすぶり」生産体制の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ・「かぼすぶり」は柑橘系養殖魚のブランド魚として、県内外に知られ需要も急増している。今後の確固たるブランドの確立と、生産体制の拡充のため、以下の検討を行う。 ・柑橘系養殖魚は他県でも類似品が出始めている。ブランド化・他県との差別化をより明確にするため、カボス投与の効果の数値化を進める。 ・市場から、通常よりも早期(夏季)のかぼすぶり出荷の要望が出ており、その試験を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ①かぼす投与効果の数値化 ・香気成分(リモネン)残存試験を5kg級魚にて実施(1~2月)した。 ・投与2週間後でも、リモネン残留量が維持されていた。販売のセールスポイントとなることが期待される。 ②早期生産技術の開発 ・かぼすぶり早期養成試験を8~9月に実施(1業者)。生産者の果皮(0.5%)投与魚を検査し、23回投与で、血合筋の褐変遅延効果を確認。当結果から、販売を従来より1ヵ月早め10月からの販売につながった。 <p>平成28年「かぼすぶり」生産量は、3月末現在で、570tと推定されている(水産振興課データ)。</p> |
| 建材ブロックを活用したヒジキ増殖の普及 | <p>ヒジキ採取量は増加傾向にあるが、過剰漁獲による資源の減少が懸念される。そこで、現場でできる増殖手法として、安価な建材ブロック等を基質とした増殖手法の普及を図る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・主な地区について1~数回/月経過観察を実施。国見・くにさき1/12調査でヒジキ着生率は不良だが順調な成長。国見の深めの箇所設置分はアカモクが卓越。安岐2/28良好な着生。 香々地1/27・2/27-28非常に良好な着生・成長。また漁場内の広範囲にヒジキの繁茂を確認(本年度のヒジキ以外の雑海藻除去効果か)。 米水津1/14ヒジキ着生数は11月から減少し不良(食害?)。 |

農林水産研究指導センター研究部・グループの所在地及び連絡先

| 組織名 | 郵便番号 | 所在地 | 電話番号 | FAX番号 |
|------------------|----------|------------------|--------------|--------------|
| 農林水産研究指導センター（本部） | 879-7111 | 豊後大野市三重町赤嶺2328-8 | 0974-28-2074 | 0974-28-2052 |
| ○農業研究部 | 879-7111 | 豊後大野市三重町赤嶺2328-8 | 0974-22-0670 | 0974-22-0675 |
| 水田農業グループ | 872-0103 | 宇佐市大字北宇佐65 | 0978-37-1141 | 0978-37-0036 |
| 果樹グループ | 873-0511 | 国東市国東町小原4402 | 0978-72-0407 | 0978-72-3402 |
| カボス・中晩柑チーム | 879-2413 | 津久見市大字津久見浦3456 | 0972-82-2837 | 0972-82-5322 |
| ナシ・ブドウチーム | 872-0103 | 宇佐市大字北宇佐65 | 0978-37-0149 | 0978-37-1437 |
| 花きグループ | 874-0844 | 別府市大字鶴見710-1 | 0977-66-4706 | 0977-67-5218 |
| ○畜産研究部 | 878-0201 | 竹田市久住町大字久住3989-1 | 0974-76-1216 | 0974-76-1227 |
| 豚・鶏チーム | 879-7111 | 豊後大野市三重町赤嶺2328-8 | 0974-22-0673 | 0974-22-0980 |
| ○林業研究部 | 877-1363 | 日田市大字有田字佐寺原35 | 0973-23-2146 | 0973-23-6769 |
| きのこグループ | 879-7111 | 豊後大野市三重町赤嶺2369 | 0974-22-4236 | 0974-22-6850 |
| ○水産研究部 | 879-2602 | 佐伯市上浦大字津井浦194-6 | 0972-32-2155 | 0972-32-2156 |
| 浅海・内水面グループ | 879-0608 | 豊後高田市呉崎3386 | 0978-22-2405 | 0978-24-3061 |
| 内水面チーム | 872-0504 | 宇佐市安心院町荘42 | 0978-44-0329 | 0978-34-4050 |

平成28年度
大分県農林水産研究指導センター業務年報

平成29年6月発行

編集
発行 大分県農林水産研究指導センター

〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺2328-8
TEL 0974-28-2074
FAX 0974-28-2052